

和仏法律学校講義録

栗津, 清亮 / 下村, 宏 / 仁井田, 益太郎 / 吾孫子, 勝 / 和
仁, 貞吉 / 松本, 烝治

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-16

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

51

(発行年 / Year)

1902-06-25

(明治三十四年十一月九日第三號郵便物認可 毎月二回)
明治三十五年六月二十五日發行

三十五年度 第二學年

和佛法律學校講義錄

第六號

和佛法律學校發行

第二學年第十六號目次

民法債權 自第二章第二節 (自八八) 至同第十四節 (至九六)

法學士 吾孫子 勝

商法 會社 (自一七八) 至 (自一八八)

法學士 和仁 貞吉

商法 商行爲 自第一章 (自八八) 至第九章 (至九六)

法學士 松本 烝治

商法 商行爲 第十章 (自九七) 至 (自一二)

法學士 粟津 清亮

民事訴訟法 第一編 (自一〇九) 至 (自一二四)

法學博士 仁井田 益太郎

財政 學 (自一五三) 至 (自一六〇)

法學士 下村 宏

雜報

○敷金ノ利息 ○運送取扱人ノ注意ノ限度 ○文官高等試験 ○第二年度擬律試驗

090
1902
2-1-16

批難ナキニ非スト雖モ第一點ハ買戻ノ目的物ヲ不動産ニ限定セハ登記ノ制度ノ完備ニ依リ第三者ノ利益ヲ保護スルコトヲ得ヘク第二點ニ付テハ潜脫ノ行爲ハ之ヲ證明スルトキハ全然無効ニ歸シ第三點ニ付テハ賣主ノ返還スヘキ金額ヲ限定スルニ依リ其弊ヲ避ケ得ヘク第四點ニ關シテハ買戻權ヲ行使スヘキ期間ヲ限定短縮スルニ依リ其害ヲ減シ得ヘク他ノ一方ニ於テ買戻ノ特約ハ古來主トシテ農民間ニ行ハルル所ニ係リ其窮迫ヲ救フノ手段トシテ必要ナルモノト認メ本法ハ買戻ノ制ヲ認ム(第五七九條)

第一款 買戻ノ要件

(一) 買戻特約ノ目的物ハ不動産ナルコトヲ要ス是レ蓋シ買戻ハ多少ノ弊害アルニ拘ハラズ專ラ必要ニ基キ認許シタル制度ナルヲ以テ之ヲ其必要ノ範圍内ニ止ムヘキヤ勿論ニシテ動産ニ關シテハ其必要ヲ認メス且其實效ヲ見サルヲ以テナリ

(二) 買戻特約ハ賣買契約ト同時ニ之ヲ結フコトヲ要ス蓋シ一タヒ賣買契約ヲ

第二學年第十六號目次

民法債權 自第二章第二節
至同第十四節 (頁八六)

法學士 吾孫子 勝

商法 會社 (頁八七)

法學士 和仁 貞吉

商法 商行爲 自第一章
至第九章 (頁九六)

法學士 松本 泰治

商法 商行爲 第十章 (頁九七)

法學士 栗津 清亮

民事訴訟法 第一編 (頁一〇九)

法學博士 仁井田 益太郎

財政學 (頁一五三)

法學士 下村 宏

雜報

○敷金ノ利息 ○運送取扱人ノ注意ノ限度 ○交官高等試験 ○第二年度試験
試驗

090
1902
2-1-16

批難ナキニ非スト雖モ第一點ハ買戻ノ目的物ヲ不動産ニ限定セハ登記ノ制度
ノ完備ニ依リ第三者ノ利益ヲ保護スルコトヲ得ヘタ第二點ニ付テハ潜脱ノ行
爲ハ之ヲ證明スルトキハ全然無効ニ歸シ第三點ニ付テハ賣主ノ返還スヘキ金
額ヲ限定スルニ依リ其弊ヲ避ケ得ヘタ第四點ニ關シテハ買戻權ヲ行使スヘキ
期間ヲ限定短縮スルニ依リ其害ヲ減シ得ヘタ他ノ一方ニ於テ買戻ノ特約ハ古
來主トシテ農民間ニ行ハル所ニ係リ其窮迫ヲ救フノ手段トシテ必要ナル事
ト認メ本法ハ買戻ノ制ヲ認ム(第五七九條)モ當事者雙方ハ賣主並買戻權
買主ニ對シテ
買主ハ其買戻權ヲ行使スルニ其限制モ從モロイモ買主ハ買戻權
(一) 買戻特約ノ目的物ハ不動産ナルコトヲ要ス是レ蓋シ買戻ハ多少ノ弊害ア
ルニ拘ハラズ專ラ必要ニ基キ認許シタル制度ナルヲ以テ之ヲ其必要ノ範圍内
ニ止ムヘキヲ勿論ニシテ動産ニ關シテハ其必要ヲ認メ且其實效ヲ見ザルヲ
以テナリ賣主ニ對シテハ其必要ヲ認メ且其實效ヲ見ザルヲ
(二) 買戻特約ハ買賣契約並同時ニ之ヲ結テ得トモ要ス蓋シ七賣買契約ヲ

第二款 買戻ノ要件

結ヒタル後ニ於テ更ニ特約ヲ以テ原賣買ヲ解除シ一タモ買主ニ移轉シタル權
利ヲ更ニ賣主ニ移轉スルコトヲ得ルヤ勿論ナリト雖モ此ノ如クシテハ其解除ノ
效力ヲ以テ其間ニ權利ヲ取得シタル第三者ニ對抗スルコト能ハス隨テ初ヨリ
當事者間ニ權利ヲ移轉シタルコトナキト同一ノ結果ヲ生ゼシムル能ハスシテ
買戻ノ制度ヲ認ムルノ必要ト相合セザレハナリ

(三) 賣主ハ代金ト契約ノ費用トヲ返還シテ其解除ヲ爲スコトヲ要ス賣主ヨリ
買主ニ返還スヘキ金額ヲ代金ト契約ノ費用トニ限リタル所以ハ前示ノ第二、第
三ノ弊ヲ避クルコトヲ得セシメンカ爲メニシテ當事者雙方ハ賣主カ買戻特約
ニ基キ解除權ヲ行使シタルトキハ一般契約解除ノ規定ニ從ヒ各其相手方ヲ原
狀ニ復セシムルノ義務ヲ負フモノナルノ結果買主ハ其取得シタル果實ヲ賣主
ニ返還シ賣主ハ其受ケタル代金ノ利息ヲ買主ニ償還スルヲ要スヘシト雖モ本
法ハ之ヲシテ相殺セシム(第五四五條第一項) 買主ハ賣主ニ代金ヲ返還スル
(四) 買戻權ノ行使ニ付キ期間ヲ定ムル場合ニ於テハ其期間ハ十年ヲ超ユルコ
トヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ十年ニ短縮ス又其期間ヲ

定メナリシ場合ニ於テハ五年内ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス蓋シ前示第四ノ弊
害ヲ避ケンカ爲メニシテ其一タモ定メタル期間ハ後日之ヲ伸長スルコトヲ許
ササル所以ハ買戻權ノ留保ハ原契約ト同時ニ之ヲ爲ササルヘカラサルコト前
陳ノ如クナレハナリ(第五八〇條)

(五) 賣買契約ト同時ニ之ヲ登記スルコトヲ要シ然ラサル場合ニ於テハ之ヲ第
三者ニ對抗スルコトヲ得ス蓋シ後日ニ於テ登記ヲ爲スヲ許シ其時ヨリ第三者
ニ對抗シ得ルモノトセンニハ買戻ヲ認メサルニ如カザレハナリ(第五八一條第
一項)

第三款 買戻ノ效力

第一項 一般

買戻ノ特約ハ解除權ヲ留保スルモノニシテ解除權行使ノ結果ハ各當事者ハ其
相手方ヲ原狀ニ復セシムルノ義務ヲ負フニ止マリ第三者ノ權利ヲ害スル能ハ
サルヲ通則トスト雖モ賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻

ハ第三者ニ對シテモ其效力ヲ生ス其結果賣主カ買戻權ヲ行使スルハ先チ買主ニ於テ賣買ノ目的物ヲ第三者ニ譲渡シ又ハ其上ニ地上權、永小作權、質權、抵當權等ヲ設定スルモ買戻權ノ行使ト共ニ第三者ハ其權利ヲ失フニシ(第五八一條第一項)然レトモ質權權ハ其權利ノ性質質權權タルニ止マルニ過キサルモ本法ハ或條件ノ下ニ於テ買戻權ニ對シテ其效力ヲ保有スルコトヲ許シ以テ買主ノ利益ヲ保護ス(同條第二項)詳言スレバ登記ヲ爲シタル質權權ハ買戻權利者ヲ害スルノ目的ニ出テサル場合ニ限り期間ノ定アル質貸借ハ尙ホ一年間ニ限り其效力ヲ保有シ期間ノ定ナキ質貸借ハ第六百十七條所定ノ豫告期間ニ限り其效力ヲ保有スベキモノト定ム蓋シ若シ右ノ如キ規定ヲ以テ買主ノ自ラ其買受ケタタル不動産ヲ使用セサル場合ニ於テ最モ普通ノ利用方法トシテ之ヲ質貸セシトスルモ賣主カ何時其解除權ヲ行使スヘキヤヲ知ル能ハス而シテ其行使ハ當然質權權ヲ取得シタル第三者ニモ對抗スルヲ結果之ヲ質借スル者ナカレハタ動産ハ其利用ヲ遂テ失フニ至リ其弊ニ堪ヘズ所ヘテレハナク其弊ニ堪ヘズ

第二項 買戻權行使ノ要件

買戻特約ニ因テ賣主ハ有スル解除權ハ通則ニ依リ買主ニ對スル意思表示ニ依リ之ヲ行使スヘキ第五四〇條且期間内ニ代金並ニ契約ノ費用ヲ現實ニ提供シテ之ヲ行フコトヲ要ス第五八三條第一項第四九三條隨テ單純テ所意思表示ハ解除ノ效力ヲ生セス蓋シ賣主ハ買戻權ヲ行フニ必ス買主ノ拂ヒタル代金並ニ契約ノ費用ヲ返還セシムコトハ第五百七十九條ノ規定スル所ナリト雖モ賣主ハ買戻ノ意思ヲ表示シテ賣買ヲ解除シタル後ニ於テ代金其他ヲ返還スルコトヲ許ストキハ其結果不動産ノ所有權ハ賣主ニ復歸スルヲ拘ハス買主ハ代金其他ノ返還ヲ受ケシメテ損失ヲ被ルコトアルベキ之ニ反シテ賣主ノシテ先ツ之ヲ返還セシムベキモノトモハ買主ハ之ニ對シテ不動産ノ返還ヲ爲サスシテ賣主ヲシテ損失ヲ被ラシムルコトナキニ非サルヲ以テ賣主ハ代金並ニ契約費用ヲ提供シテ以テ買戻ヲ爲スベキモノトセリ

第三項 債權者ノ間接訴權

債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スルカ爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フニ付テハ第四百二十三條ノ認ムル所タリ而シテ買戻權ハ一財產權ニシテ敢テ債務者ノ一身ニ專屬スル權利ナリト謂フヘカラザルヲ以テ債權者モ亦代リテ之ヲ行使スルコトヲ得ヘキヤ勿論ナリ然レドモ債權者カ買戻權ヲ行ハントスルハ必スシモ買戻權ノ目的タル不動産ヲ自ラ取得セシトニ在ラスシテ買賣契約當時ノ代金ト買戻ノ當時ニ於ケル不動産ノ價額トノ差額ヲ得テ其權利ノ辨濟ニ充テシトスルニ在ルヲ以テ本法ハ賣主ノ債權者カ第四百二十三條ノ規定ニ依リ賣主ニ代リテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ヲシテ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ當時ノ不動産ノ價額ヨリ賣主カ返還スヘキ金額ノ差額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ以テ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得セシム第五八二條

第四項

買戻權ヲ行ヒタル後ノ效力

第一其通則 買戻其モノノ效力ニ關シテハ原則トシテ契約ノ解除ニ關スル一般ノ規定ノ適用アルヘキコト勿論ナリ唯第五百四十五條ノ適用ニ付キ差異存スル所ハ(一)第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ルト(二)通則ニ依レバ代金ニ利息ヲ附シテ返還スルコトヲ要スルニ買戻ニ於テハ果實ハ之ヲ買主ニ與フルヲ以テ特約ナキ限ハ代金ノ利息ヲ返還セシメタルト(三)一般解除ニ在リテハ先ヅ意思表示ヲ爲シ然後原狀回復ヲ爲スヲ許スト雖モ買戻ニ於テハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ノ提供ヲ要スルトニ在リ是レ蓋シ買戻ニ期間ヲ定メタルニ基因シ故ニ買主ノ利益ヲ正當ニ保護スルニ必要ナレバナリ(四)代金ノ返還ニ基第二ノ費用ノ償還 買戻ノ場合ニ於テモ買主ハ自己ノ所有物ニ付キ費用ヲ支出シタルモノナルヲ以テ明文ナキ限ハ賣主ニ於テ費用ノ償還ヲ爲スヲ要スルト雖モ其結果賣主ニ不當ノ利得ヲ生ズヘキヲ以テ買主ヲシテ之ヲ返還セシム轉得者カ費用ヲ支出シタル場合亦同シ(第五八三條第二項而シテ其償還ヲ爲ス

（キ）限度ハ原則トシテ占有ニ關スル一應ノ規定第一九六條ニ依リ必要費ハ其全額ヲ返還セシム但通常ノ必要費ニ付テハ買主ハ多ク果實ヲ取得スルヲ以テ買主ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス次ニ有益費ハ關シテハ買主ハ理論上善意ノ占有者ナルモ賣主カ買戻權ヲ行使スル場合ニ於テハ目物物ヲ賣主ニ返還スヘキ義務アルコトヲ知ル者ニシテ惡意ノ占有者ニ類スル所ナキニ非テアルヲ以テ本法ハ買主ニ其償還ニ付キ裁判所ニ相當ノ期限ヲ許與センコトヲ求ムルヲ許セリ其結果買主ハ必要費ニ付テハ留置權ヲ行ヒ得ヘシト雖モ有益費ニ付テハ裁判所カ賣主ニ期限ヲ許與シタル場合ニ於テハ留置權ヲ行フコトヲ得ス

第三 共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣渡シタル場合ニ於テ
（甲） 共有者ノ全員カ買戻ノ特約ヲ以テ其權利ヲ賣渡シタル場合ニ此場合ニ於テハ其買戻ノ效果ハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ定ムヘキモノトス但解除權行使ニ關スル一般ノ規定ニ於テ共有者中ノ一人カ解除權ヲ行使スルコトヲ得ス（第五四四條）

（乙） 共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ以テ其持分ヲ賣渡シ而シテ其買戻ヲ行ハントスルニ方リ買主ニシテ依然共有者タル場合ニ付テモ通則ニ依リ其效果ヲ定ム

（丙） 共有者ノ一人カ其持分ヲ賣渡シ而シテ買戻權ヲ行フニ先テ共有物ノ分割ヲ行タル場合ニ此場合ニ於テハ其分割カ買主ノ請求ニ因リテ行ハルモ其他ノ共有者ノ請求ニ因リテ行ハルモ之ニ由リ其結果ヲ異ニスルコトヲ得ヘキモノト定ム（第五八四條）隨テ賣主ハ一般ノ場合ト異ナリ其賣渡シタル權利其モノヲ買戻スコトヲ得サルヲ結果ヲ生シ換言スルハ其賣渡シタル權利ハ物ノ全部ニ付テ存スル權利ナリシニ買戻シ得ル權利ハ物ノ一部ニ於テ完全ナル所有權ヲ得ルノ結果ヲ生スヘシ蓋シ共有ハ法律ヲ望マサル所ニシテ成ルヘテ返還其分割ヲ行ハルヘキコトヲ希冀スルヲ以テ各共有者ハ何時ニテモ分割ヲ請求得ヘキモノトシタルカ故ニ（第二五六條）買主カ所有者タルト賣主カ所有者タルト別同クモ共有ノ狀態ノ存續ニ限ル何人ト雖モ分割ヲ請求得ヘキモノニシテ

民法債權 買賣 買取

假令賣主が買戻權を行使し依り一たび從前如く共有分を取得るものと雖も、直ちに翌日他の共有者も求め因り分割を受くることナシト謂フヘカラス果シテ然ラハ賣主は取りたへ早晚分割を免れるモノト謂フヘカス隨テ其分割が買主の求め因り行はれたルト他の共有者も求め因り行はれたルト問ハス共有分を買戻し得るストシテ不服ヲ唱フヘキヲ理ナクシタリ況ヤ多クの場合ニ於テハ物の一部ニ於ケル完全ナル權利ハ其全部ニ於ケル共有分ヨリモ利便アルヲ加之賣主以外ノ者ノ利益ヲ參酌セハ勢ヒ本條ノ如クナラサルヲ得タルニ於テ何トナレハ買主ハ經令其權利ハ解除を受くる免れる權利ナリトモ所有若タルヲ失ハサルヲ以テ第三者ヨリ之ヲ觀ルニ於テハ一般所有者ト同一權利ヲ有スルモノト觀ルヘキニ買戻權を行使し依り分割ハ其效力ヲ失ヒ共有ノ狀態ニ復歸スルモノトモハ買主は損害ノ賠償ヲ求め得ヘキヲ勿論ナリト雖モ事實上其利益ヲ害セラルルコト少カラサルヘク又買主ハ他の共有者ヨリ分割ノ請求ヲ受くるニ於テ之ヲ拒ムコト能ハサルニ拘ハラス買戻權を行使アリテ共有ノ狀態ニ復シタルハ爲メ損害ヲ賠償スヘキモノトスルハ斷ニ失ス

ルノ嫌ナキ能ハス是レ第五百八十四條ノ存スル所以ナリ然レトモ分割ハ正當ニ行ハルルニ非サレハ賣主ハ損害ヲ受クヘキヲ以テ賣主ヲシテ分割ニ干與シ其利益ヲ保護スルコトヲ得セシメシカ爲メ本法ハ分割ヲ賣主ニ通知スルニ非アレハ之ヲ以テ賣主は對抗スルコトヲ得サルモノト定ム(第五八四條但書)

(丁) 共有物ノ競賣アリタル場合ハ共有物ハ協議ニ因リ之ヲ競賣シ得ヘク又其協議調ハサル場合ニ於テ裁判所カ現物ヲ以テ分割ヲ爲スコト能ハサルカ若クハ分割ニ因リ著シク其價格ヲ減スル處アリト認ムルトキハ其競賣ヲ命スルコトヲ得第二五八條ノ結果其競賣アリタル場合ニ關スル買戻權行使ノ效果ニ付キ本法ハ左ノ規定ヲ設ク

(二) 買主ニ非サル者カ競落人ト爲リタル場合、此場合ニ於テハ競落人カ共有者ノ一人ナルト其他ノ者ナルトヲ問ハス各共有者ハ其代價ヲ分チ取ルコトヲ得ヘク買主モ共有者ノ一人トシテ代金ノ一部ヲ受取ルノ權利アリ然レトモ此場合ニ於テハ其賣渡シタル權利ハ全然消滅シタルヲ以テ舊民法ハ買戻ヲ爲スコトヲ得サルモノト定ム(財產取得編第九〇條)雖モ買戻權ハ賣主ノ

有スル權利ニシテ其行使期間内ハ何時ニテモ行使シ得ヘキ權利ナルニ其權利カ買主ト第三者トノ間ニ行ハレタル分割競賣ヲ行爲因リテ消滅スルキノ理ナク而シテ其代金ハ共有ノ持分ノ價格代表スルモノナルカ故ニ其有權其モノヲ買戻スル得スルハ其代價ハ之ヲ買戻シ得サルヘカラヌ又買主ハ賣主ノ意思ノミニ因リ買戻サルヘキ權利ヲ有セシモノナルカ故ニ競賣因リ多額ノ代金ヲ得ルモ之ヲ買主ノ所得トセサルヘカラサルノ理ナキニ於テヲ以テ故ニ本法ハ其受ケタル若クハ受ケル代金ニ付テ買戻ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト定ム然レトモ賣主ニ通知セシメタル競賣ノ之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得ス(第五八四條)以テ之ヲ買戻スルハ其代金ハ其賣主カ競賣人ト爲リタル場合ニ於テ其賣主ニ買戻權ノ存スヘキコト勿論ナリト雖モ其行使ニ關スル通則ニ依リテ買主ハ競賣ニ因リテ完全ナル所有權ヲ取得シタルモノナルニ再々賣主トノ共有分ヲ有スルニ至リ損失ヲ受ケ而シテ其有ノ狀態ノ少カラシコト

主ハ法律ノ希望スル所ナルヲ以テ若シ場合ニ於テハ當事者間ニ別段ノ意思表示ナキ限ハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十三條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ不動産ノ全部ノ所有權ヲ買戻ササルヘカラヌ(第五八五條第二項)買主ノ請求ニ基テ競賣ニ因リテ買主カ競賣人ト爲リタル場合ニ此場合ニ於テハ賣主ハ自己ノ持分ノミヲ買戻スコトヲ得テ再々共有者ト爲ルコトヲ得蓋シ分割ノ請求權ハ法律ニ依リ各共有者ノ有スル所ナリト雖モ此場合ノ如キ第三者ノ權利ニ影響ナキ場合ニ於テ買主ノ請求ニ基テ分割ニ因リ賣主ヲシテ全部ノ所有權ヲ買戻サシムヘキモノトシテ以テ賣主ノ負擔ヲ重クスヘキ理由ナキヲ以テナリ然レトモ其共有ノ狀態ノ少カラシコトハ法律ノ望ム所ナルコト前陳ノ如キヲ以テ此場合ニ於テモ賣主ニ全部ヲ買戻スヘキ權能ヲ與ヘ以テ賣主ニ全部ト一部トニ付テ其選擇權ヲ行使スルヲ許ス(第五八五條第一項)以テ之ヲ買戻スルハ其代金ハ其賣主カ競賣人ト爲リタル場合ニ於テ其賣主ニ買戻權ノ存スヘキコト勿論ナリト雖モ其行使ニ關スル通則ニ依リテ買主ハ競賣ニ因リテ完全ナル所有權ヲ取得シタルモノナルニ再々賣主トノ共有分ヲ有スルニ至リ損失ヲ受ケ而シテ其有ノ狀態ノ少カラシコト

買賣契約ノ解除ニ非シテ原買賣契約ト同時ニ賣主ニ其任意ニ更ニ原契約ノ目的物ニ關シテ買賣契約ヲ結フノ權利ヲ留保スルモノニシテ條件附買賣ニ該當シ此場合ニ於テ新ナル賣主ノ意思表示ニ依リ成立スルモノト看做ス我民法ニ於テ此ノ如キ合意ノ有效ナルコト勿論ニシテ我不動產登記法ハ不動產ニ關シ條件附權利ノ假登記ヲ許シ條件ノ成就ヲ待テ本登記ヲ爲サハ登記ノ順序ニ依リ其效力ヲ有スヘキヲ以テ原買賣契約ト同時ニ再買賣ノ契約ヲ登記スルトキハ買戻ト同一ノ效力ヲ生スルコトヲ得ヘシ不動產登記法第二條第七條ニ合フ

第二 單純ナル解除權留保モ其效果ニ於テハ第三者ニ對抗セザルノ外原則トシテ買戻ト異ナルコトナシ羅馬法ニ於テハ物ヲ賣渡シタル後一定ノ期間内ニ更ニ高價ニテ買取ルヘキ旨ノ申込ヲ爲ス者アルトキハ原買賣契約ヲ解除スルノ權利ヲ賣主ニ留保スルノ特約ヲ認メ之ニ第三者ニ對抗スルノ效力ヲ付與シ唯原買主カ之ト同一ノ代價ヲ支拂フヘキ旨ノ申出ヲ爲シタル場合ニ於テハ賣主ハ契約ノ解除權ヲ失フトスルノ制度ヲ認メタリ (Article 512)

第三章 交換

交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非タル財產權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生スル諾成ノ雙務契約ナリ(第五八六條第一項)交換ト買賣トノ區別ハ實ニ買賣ニ於テハ買主ハ金錢ノ所有權ヲ給付スヘキ債務ヲ負ヒ賣主ハ之ニ對シテ金錢ノ所有權以外ノ財產權ヲ給付スヘキ債務ヲ負フニ反シテ交換ニ於テハ當事者雙方ニ於テ金錢以外ノ財產權ヲ移轉スヘキ債務ヲ負フニ存ス其結果互ニ金錢ヲ給付スル所謂兩換ナルモノハ本法所謂交換ニ非タルヤ否ヤノ問題ヲ生ス

兩換ノ性質ニ付テハ(一)或ハ之ヲ以テ交換ナリトス其理由ハ金錢ハ普通ノ場合ニ於テハ取引ノ媒介タルヘキ貨幣ナリト雖モ兩換ノ場合ニ於テハ互ニ金錢ヲ商品ト看做シ例ヘハ金貨ヲ商品ト銀貨ヲ商品ト相換フルモノナレハナリト云フニ在リ(二)或ハ之ヲ以テ一種ノ無名契約ナリトス蓋シ買賣ニ於テハ當事者ノ一方カ金錢ノ所有權ヲ移轉スルモノニシテ交換ニ於テハ當事者ノ雙方カ

金銭ノ所有權以外ノ財産權ヲ移轉スルモノナルニ兩換ニ於テハ當事者ノ雙方
カ互ニ金銭ノ所有權ヲ移轉スルヲ以テ賣買ニモ交換ニモ非サル一種ノ無名契
約ナリト云フニ在リ(三)或ハ之ヲ以テ賣買ナリトス蓋シ兩換ヲ求ムル者ハ一定
ノ金銭ヲ求ムルモノナリト雖モ其金銭タルキ當事者ノ意思ハ之ヲ商品ト觀ル
ニ在リテ單ニ金銭トシテ之ヲ求ムルニ非ス而シテ其對價トシテ支拂フモノハ
單ニ金銭トシテ支拂フモノナルカ故ニ其關係ハ商品對代價ニシテ賣買ト謂ハ
サルヲ得スト云フニ在リ卑見ニ依レハ賣買ニ於ケル買主ノ義務ハ金銭ノ一定
ノ額例ヘハ金何圓ト云フカ如シテ給付スルニ在リテ特定シタル貨幣ノ各片例
ヘハ金貨銀貨ト云フカ如シテ給付スルニ在ルニ非ス故ニ當事者ノ一方ニシテ
特定ノ貨幣ヲ支拂フヘシトノ契約ニ交換ニシテ賣買ニ非ス然レトモ賣買ニ於
テ買主カ代金タル一定ノ金額ヲ支拂フノ方法トシテ附隨的ニ金貨ヲ以テ支拂
フヘキ旨ヲ定メタル場合ノ如キ當事者ノ意思ハ金貨ヲ以テ支拂フ能ハサル場
合ニ於テハ他ノ貨幣ヲ以テ支拂フヘキモノト爲スニ在ルヲ以テ賣買タルコト
ヲ失ハサルヤ勿論ナリ詳言スレハ賣主ハ決シテ金銭ノ一定ノ額ヲ支拂フノ義

付テモ制限ナシ故ニ定款ノ作成ト同時ニ之ヲ爲スモ將タ其以後ニ之ヲ爲ス義
可ナリ(四)又會社ノ設立ニ必要ナル準備行為ヲ爲スモノニシテ會社ノ業務ヲ執行
同時設立ノ場合ニ於ケル株式引受ノ效力ハ之ヲ全體ノ上ヨリ觀ルトキハ會社
ヲ成立セシメ之ヲ各箇ノ株式引受ニ付テ觀ルトキハ引受人ヲシテ株主タル責
格ヲ取得セシムルニ在リ(五)又會社ノ設立ニ必要ナル準備行為ニシテ會社ノ業務
第二ニ取締役及ヒ監査役ノ選任ニ付ヘハ前記ノ第一ニ對シテハ會社ノ業務ヲ
發起人ハ會社ノ設立ニ必要ナル準備行為ヲ爲スモノニシテ會社ノ業務ヲ執行
スルモノニ非ス故ニ一旦會社成立スル以上ハ會社ノ爲メ業務ヲ執行スル者ヲ
選任セサルヘカラス是レ法律カ發起人ヲシテ取締役及ヒ監査役ノ選任ヲ爲サ
シムル所以ナリ其選任ハ發起人ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス受ニ發起人
ノ議決權ノ過半數ト言フハ發起人ニシテ會社ノ成立ニ因リ株主ト爲リタル者
ノ議決權ノ過半數ト解釋スルヲ正當トス此取締役及ヒ監査役ハ發起人即チ株
主中ヨリ選任セラレキモノナリ商法第百六十四條第百六十五條第百六十六
條第百八十條及ヒ第百八十九條ニ此場合ニ適用セラル職權ニ注意スルモノナリ

商法第六十四條第六十一條第一項ニ依リハ株主總會ニテ取締役ヲ選任スルニハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スヘキモノナルトモ、第二百二十三條ノ場合ニ取締役ヲ選任スルニハ株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ株主ノ出席シタルト否トヲ問ハサルモト是ナリ、同條第三項ニ依リハ、第三、第一回ノ株金ノ拂込ハ、發起人ハ總株式ノ引受ニ因リテ會社成立シタルトキ遲滞ナク株金ノ四分一ヲ下ラサル第一回ノ拂込ヲ爲スコトヲ要ス株金ノ全額ヲ一時ニ拂込ムコトハ固ヨリ自由ニシテ其場合ニ於テハ株金ヲ二十圓マテニ下スコトヲ得然レモ數同ニ分チ株金ヲ拂込ムコト普通ニ行ハル而シテ第一回ニ拂込ムヘキ金額モ亦自由ニ定ムルコトヲ得レトモ其額ハ株金ノ四分一ヲ下ルコトヲ得ス其理由ハ之ニ依リ會社ヲシテ營業ニ着手スル資金ヲ得セシメ且將來ニ於ケル株金ノ拂込ヲ確實ナラシメントスルニ在リ、第一二三條此拂込ハ何人ニ對シテ爲スヘキモノナルカ會社ハ株式總數ノ引受ニ因リテ成立シ發起人ハ其任務ヲ終了シタルモノニシテ當然會社ノ業務ヲ執行スルモト能ハサル者ナルカ故ニ此拂

込ハ發起人ニ對シテ爲スヘキモノニ非サルコト論ヲ埃タス會社ノ業務ヲ執行スル者ハ取締役ナリ故ニ此拂込モ亦取締役ニ對シテ爲サルヘキモノナリト謂ハサルヘカラス株主ト爲リタル者カ拂込ヲ怠リタルトキ取締役ハ訴ノ方法ニ依リ強制履行ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ論ヲ埃タス其他商法第五百十二條、第五百十三條ノ規定ニ從ヒ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ、第一二四條、第二六條、第四、檢查役ノ選任及ヒ其報告、發起人又ハ原簿對照會社ノ事項及、取締役ハ其選任後遲滞ナク第二百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査セシムルカ爲メニ檢查役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス裁判所ハ檢查役ノ報告ヲ聽キ此等ノ事項ヲ不當ト認メタルトキハ第三百三十五條ニ準シ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得是レ第三百二十四條ノ規定スル所ナリ夫レ發起人カ會社ノ設立ニ際シ不正ノ利益ヲ貪ル弊害アルコトハ前述セバカ如シ法律ハ此弊害ヲ矯正スルカ爲メ第三百二十二條ノ規定ヲ爲シ且創立總會ニ關スル規定ヲ爲シタリト雖モ創立總會ハ漸次設立ニ付タノミ存在シ同時設立ニハ創立總會ナクモノナキカ故ニ他ニ適當ノ監督方法

ヲ設ケサルトキハ發起ニ伴ヒテ生スル弊害ヲ杜絶スルコト能ハス是ニ於テカ
法律ハ取締役ニ命スルニ検査役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ以テシ裁判
所ニ與フルニ検査役ノ報告ヲ聽キ相當ノ處分ヲ爲スベキ職權ヲ以テシタリ檢
査役ノ選任ハ本店所在地ノ區裁判所之ヲ管轄ス裁判所ハ固ヨリ發起人以外ノ
者ニ付テ検査役ヲ選任スルコトヲ得ルノミナラス検査ノ目的ヲ達スルニハ發
起人以外ノ者ヲ選任スルヲ相當トス検査役ハ書面ヲ以テ報告ヲ爲シ検査ニ付
テ説明ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ検査役ヲ訊問スルコトヲ得裁判所カ相當
ノ處分ヲ爲スニハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ爲スコトヲ要シ其決定ヲ爲ス前
取締役及ヒ發起人ノ陳述ヲ聽カサルヘカラス發起人又ハ取締役カ検査役ノ檢
査ヲ妨ケタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル(第一二四條、第二六二
條第三號非訟事件手續法第一二六條乃至第一二九條) 前法會社ノ設立ニ
第五 登記 前法會社ノ設立ニ伴ヒテ生スル弊害ヲ杜絶スルコト能ハス是ニ於テカ
検査役カ調査ヲ終了シタルトキハ會社ハ其終了ノ日ヨリ二週間内ニ其本店及
ヒ支店ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス其登記スベキ事項ハ第百

四十一條ニ規定セラル第五十一條第二項第三項第五十二條及ヒ第五十三條ノ
規定ハ株式會社ニ準用セラル株式會社ノ設立ノ登記ハ左ノ效果ヲ生ズ申立
第一 第三者ニ對シテ會社ノ設立ヲ對抗スルコトヲ得(第四五條) 以テ對大
二 開業ノ準備ニ著手スルコトヲ得(第四六條) 申立ニ對シテハ其ハ株
三 登記後六箇月内ニ開業セラルヘカラス第六七條 前法會社ノ設立ニ
四 株券ノ發行ヲ爲スコトヲ得(第一四七條) 前法會社ノ設立ニ
五 株式ノ譲渡ヲ爲スコトヲ得(第一四九條) 前法會社ノ設立ニ

第三節 漸次設立

發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ其引受ナキ株式ニ付キ株主ヲ募集ス
ルコトヲ要ス發起人ハ株式ノ總數ヲ引受ケタル義務ナキモ少クとも一株ノ引受
ヲ爲ス義務アルコト明カナリ舊商法ハ株主ヲ募集スルニ付キ目論見書ヲ公告
シ假定款ヲ展開セシメ以テ應募者ヲシテ會社ノ内容ヲ知ラシムルコトヲ命シ
タレトモ新商法ハ此點ニ關シ何等ノ規定ヲ爲サズルカ故ニ發起人ハ適當ト認

ムル所ノ方法ニ依リ株主ヲ募集スルコトヲ得漸次設立ニ於テ會社カ第三者ニ對シテ其設立ヲ主張スルコトヲ得ルニ至ルヲ爲スベキ手續左ノ如シ

- 一 株主ノ募集
- 二 株主ノ第一回ノ拂込
- 三 創立總會ノ招集及ヒ其議決
- 四 登記

第一 株主ノ募集

發起人カ爲ス所ノ株式ノ引受ニ付テハ前節ニ説明シタル所ヲ參照セハ明カナリ發起人ノ募集ニ應ジテ株主ト爲ラント欲スル者ハ株式ノ申込ヲ爲ササルヘカラス此株式ノ申込ハ必ス書面ヲ以テスルコトヲ要ス其書面ヲ株式申込證ト稱ス商法第二百二十六條ノ規定ニ依ルトキハ株式ノ申込ヲ爲サントスル者ハ株式申込證二通ニ其引受タヘキ株式ノ數ヲ記載シ且額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ニハ其引受價格ヲ記載シ之ニ署名セサルヘカラス株式申込證ハ發起人ノヲ作リ左ノ事項ヲ記載ス

一 一定款作成ノ年月日
二 第二百二十條及ヒ第二百二十二條ニ揭ケタル事項
三 各發起人カ引受ケタル株式ノ數
四 第一回拂込ノ金額
株式ノ申込ニ付キ株式申込證ヲ必要トシタル立法上ノ理由ヲ案スルニ發起人カ會社ノ設立ニ際シ種種ノ不當ナル利益ヲ貪ル弊害アルコトハ屢々陳ヘタル所ニシテ發起人ノ虛偽ノ陳述ヲ信シ其勸誘ニ應ジ株式ノ申込ヲ爲ス者少カラス此弊害ヲ防キ株式申込人ノ利益ヲ保護スルニハ舊商法ノ如ク目論見書ヲ公告シ定款ヲ展閱セシムルヲ以テ足レリトセス株式申込人ヲシテ一定ノ書面ニ依リ申込ヲ爲サシメ其書面ニ會社ノ設立ニ關スル重要ナル事項ヲ記載セシムルトキハ會社ノ内容ヲ知ラスシテ株式ノ申込ヲ爲ス者ナキニ至リ能ク立法ノ精神ヲ達スルコトヲ得是レ新商法カ獨逸商法ノ主義ニ倣ヒ株式申込證ノ制度ヲ採用シタル所以ナリ(第一二五條第一二六條)
株式申込人ハ株式申込證二通ヲ以テ申込ヲ爲ササルヘカラス一通ニテ申込ヲ

爲シタルトモハ其效力如何子證ハ法文ノ解釋上其申込ハ無効ナリト信ス法律
カニ通テ要スト定メタル理由ハ惟クニ一通ハ會社ニ保存シ一通ハ設立登記ヲ
申請スルニ當リ申請書ニ添附スル必要アルカ故ナ所ハ非ハ誤認手續法第
八七條發起人ハ株式申込證ヲ作ラズ又ハ之ニ記載スル事項ヲ記載セズ又ハ
不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處テラレ第百二六
條第六號) 則チ同キムムニ起テ且チ同キムムニ對テ夫申込人マデハ一紙ノ書面ニ
株式ヲ引受ケントスル者ハ株式申込ハ如何ナル性質ヲ有スル意思表示ナルカ
是レ頗ル議論アル問題ナリ予輩ノ解スル所ニ依レハ株式ノ申込ハ時トシテハ
契約ノ要素アル申込タルコトアリ又承諾ナルコトアリ最モ多クノ場合ニ於テ
ハ發起人カ株主ヲ募集スルカ爲メニ爲ス所ノ行爲ハ申込ノ誘引ニシテ株式申
込證ヲ以テスル意思表示ハ一ノ契約ノ申込ナリ故ニ發起人カ其申込ニ對シ承
諾ヲ爲スニ非サレハ契約ハ成立セズ然レトモ時トシテ發起人ハ或特定ノ人ニ
對シ株式ノ引受ヲ爲サシコトヲ申込ムコトアリ斯ル場合ニ於テハ株式申込人
ノ意思表示ハ此發起人ノ申込ニ對スル承諾ニシテ契約ハ之ニ依リテ直チニ成

立スルコトヲ得要スルニ株式申込證ヲ以テスル意思表示ハ常ニ契約ノ申込ナ
リト謂フヲ得ス株式申込人ノ意思表示ハ發起人ニ對スルモノナルコト前段ノ
説明ニ依リテ明カナリ故ニ株式ノ引受ニ關スル契約ハ發起人ト株式申込人ト
ノ間ニ成立シ其時期ハ一方ノ申込ニ對スル他方ノ承諾アリタル時に在リ然ル
ニ學者或ハ其成立時期ヲ以テ設立總會終結ノ時に在リト爲ス者アリトモ予輩
ハ株式ノ引受カ確定シ然ル後創立總會ヲ招集スヘキモリト信ス此契約ヨリ生
スル效果左ノ如シ

第一 株式引受人ハ發起人ニ對シ第一回ノ拂込ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ

第二 發起人ハ株式引受人ニ對シ會社ノ設立ニ必要ナル手續ヲ爲スヘキ義務
ヲ負フ

第三 株式引受人ハ將ニ成立セシトスル會社ノ株式ヲ取得シ其株主ト爲ルコトヲ目
的トスル意思表示ナルコトハ既に前節ニ説明シタル所ナリ故ニ株式引受人カ
前ニ述ヘタル契約ニ依リテ發起人ニ對シテ負フ所ハ義務ハ一ニ解除條件附義
務ナリ即チ會社カ成立スルニ至ラズシテ止ミタルトキハ當然解除セラルベ

株式ノ引受ハ一ノ契約ナリ故ニ民法ノ原則ニ從ヒ或ハ當然無効ナレトアル
ヘク或ハ又取消アルルコトアルヘシ然レトモ株式引受人カ詐欺又ハ強迫ノ原
因トシテ株式ノ申込ヲ取消スコトハ會社カ設立登記ヲ爲シタル以後ニ於テ之
ヲ爲スコトヲ得ス(第一四二條)蓋シ株式引受カ確定シテヨリ設立登記ヲ爲ス
至ルマデハ多クノ日月アリテ詐欺又ハ強迫ニ因リ株式ヲ引受ケタル者ハ其間
ニ便ニ申込ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス登記ニ依リテ會社ノ成立ヲ外
部ニ發表シタル後或者ハ株式ノ申込ヲ取消シタルカ爲メ會社ノ設立ニ影響ヲ
及ボサシムルコトハ實際上甚タ不便ナリ是レ商法第百四十二條カ特別ノ規定
ヲ爲シタル所以ナリ詐欺又ハ強迫ニ非サル他ノ原因ニ因リテ株式ノ申込ヲ取
消シ得ルハ論ヲ埃タス(第一四三條)蓋シ株式引受カ確定シタル以後ニ於テ之
株式ノ申込ニ關シ商法第百四十條ハ二箇ノ特別ナル規定ヲ爲セリ即チ株式申
込人ハ左ノ二場合ニ於テ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコ
トヲ得(第一四四條)一ハ會社ノ設立ニ關シ詐欺又ハ強迫ニ因リテ株式ノ申込
ヲ爲シタル場合ニ於テ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコ
トヲ得(第一四四條)二ハ會社ノ設立ニ關シ詐欺又ハ強迫ニ因リテ株式ノ申込
ヲ爲シタル場合ニ於テ其申込ヲ取消シ拂込ミタル金額ノ返還ヲ請求スルコ
トヲ得(第一四四條)

二 其拂込カ終リタル後六箇月内ニ發起人カ創立總會ヲ招集セサルトキ
抑モ株式ノ申込ヲ爲ス者ハ資本ヲ會社事業ニ投下シ其利殖ヲ圖ラントスルヲ
目的トス然ルニ前記二箇ノ場合ニ於テハ會社ノ成立スヘキ時期不確定ニシテ
株式ヲ引受ケタル者ハ其間空シク資本ヲ發起人ノ手ニ委テ何等ノ利益ヲ得ル
所ナシ是レ株式引受人ノ本旨ニ非サルノミナラス長ク之ヲ擔擲スルトキハ會
社ノ成立ヲ危クスルノ虞アリ故ニ此ノ如キ場合ニ株式引受人ヲシテ株式ノ申
込ヲ取消スコトヲ許スハ一方ニ於テ株式引受人ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル
ノミナラス他方ニ於テ發起人ヲ督勵シテ設立ニ關スル事務ヲ進捗セシムルノ
利益アリ株式引受人ハ會社カ設立ノ登記ヲ爲シタル後ニ於テ第百四十條ノ規
定ニ從ヒ其申込ヲ取消シ株金ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルヤ是レ一ノ問題ナ
リ予輩ハ第百四十條ノ精神ニシテ前述ノ如シトセハ會社ハ登記後直チニ開業
ノ準備ニ著手スルコトヲ得ルカ故ニ登記後株式引受人ヲシテ申込ノ取消ヲ爲
スコトヲ得セシムル理由ナキモノト信ス(第一四四條)蓋シ株式引受カ確定シ
以上ハ株式ノ引受ヲ一ノ契約ナリト前提シテ商法ノ規定ヲ説明シタルモノナ

リ然ルニ世上或ハ株式ノ申込ヲ以テ一ノ單獨行為ナリトシ各株式申込人ハ發起人ノ承諾ヲ要セスシテ其引受タヘキ株式ノ數ニ應ジ株金ノ拂込ヲ爲ス義務アリト論スル者アレトモ予輩ハ此說ニ賛成スル能ハス株式申込人ハ其引受タヘキ株式ノ數ニ應ジ拂込ヲ爲ス義務アリト雖モ其株式ノ數ハ如何ニシテ定ムルカ各株式申込人ハ株式申込證ニ其引受タヘキ株式ノ數ヲ記載スト雖モ其記載セラレタル株式ノ總數ハ必スシモ定款ニ定ムル所ノ株式ノ總數ニ該當スルモノニ非ス故ニ株式ノ引受カ確定スルハ發起人ハ各株式申込人ハ有スヘキ株式ノ數ヲ定メタルトキニ在リテ株式申込人ハ其定ヨリタル株式ノ數ニ應ジテ拂込ヲ爲スヘキモノナリト謂ハサルヘカラス是レ予輩カ株式ノ引受カ株式申込人ト發起人トノ間ノ契約ニシテ株式ノ申込ノミニ因テ法律上ノ效果ヲ生ズルモノニ非スト論スル所以ナリ

第二 第一回ノ株金ノ拂込 發起人ハ其募集其數ヲ奏シ株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞方々株式申込人ヲシテ各株式ニ付キ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス第一回ノ拂

込ノ金額ハ株金ノ四分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス其拂込ヲ爲サシムル理由ハ同時設立ニ付テ説明シタルト同一ナル故ニ更ニ贅セス若シ額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其額面ヲ超ユル金額ハ第一回ノ拂込ト同時ニ拂込マシムルコトヲ要ス株式引受人カ第一回ノ拂込ヲ爲ササルトキハ發起人ハ二週間ヲ下ラサル期間ヲ定メ其期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨及ヒ其期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フヘキ旨ヲ株式引受人ニ通知スルコトヲ得株式引受人カ此通知ヲ受ケタルニ拘ハラヌ尙ホ拂込ヲ爲ササルトキハ其權利ヲ失フ之ニ因リテ發起人ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ賠償ノ責任アリ株式引受人カ拂込ヲ爲ササル爲メ其權利ヲ失ヒタル場合ニハ發起人ハ其者カ引受ケタル株式ニ付キ更ニ株主ヲ募集スルコトヲ得然レトモ發起人ハ第百三十條ノ規定ニ依リ株式引受人ニ拂込ヲ強制スルコトヲ要スルモノニ非スシテ或ハ新法方法ニ依リ之ヲ強制シ或ハ自ラ其株金ノ拂込ヲ爲シ又ハ株式引受人ヲ失ヒタル株式ヲ自ラ引受ケタルコトヲ得第一二八條第一二九條第一三〇條第一三六條第百二十九條及ヒ第百三十條ノ規定ハ株式引受人ニ關スルモノナリ然レトモ株式

引受人ノミカ第一回ノ拂込ヲ爲シ發起人ハ其拂込ヲ爲ササルモ可ナリトノ理
由ナキカ故ニ發起人モ亦第百二十九條ノ規定ニ從ヒ第二回ノ拂込ヲ爲スヘキ
モノナリト謂ハサルヘカラス然ラハ發起人ハ何人ニ對シテ拂込ヲ爲スヘキカ
之ニ關スル明文ナシト雖モ發起人相互ニ拂込ヲ爲スヘキモノナリト解釋スル
ノ外ナシ而シテ發起人中或者カ拂込ヲ怠リタルトキ他ノ發起人ハ第百三十條
ノ規定ニ從ヒ之ヲ強制スルコトヲ得ルヤ予輩ハ第百三十條ノ文詞ニ徴シ同條
ハ株式引受人ノ拂込ヲ強制スル規定ニシテ發起人ニハ適用ナキモノト信ス故
ニ此場合ニハ訴ノ方法ニ依リテ強制シ若クハ他ノ發起人カ之ニ代リテ自ら拂
込ヲ爲スノ外ナシト謂フ可キモノナリト謂フ可キモノナリト謂フ可キモノナリ
第一回ノ拂込ノ金額ハ何時會社ノ財産ニ歸スルカ此點ニ付テモ何等ノ明文ナ
シ財團法人ニ關シタハ民法第四十二條ニ規定アレトモ會社ハ社團法人ナルカ
故ニ此規定ヲ以テ解釋スルヲ得ス予輩ハ株式引受ノ效果トシテ株式引受人ハ
發起人ニ對シ第一回ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フコトヲ説明シタリ故ニ發起人ハ
其權利トシテ株式引受人ニ對シ第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ得然レトモ

發起人ハ唯將來成立スヘキ會社ノ爲メニ金額ヲ領收スル權利ヲ有スルニ止
リ其金額ヲ自己ノ財産ト爲スヲ得ス其金額ハ會社ノ資產ヲ形成スヘキモノニ
シテ決シテ發起人自身ノ財産ニ入ルヘキモノニ非ス其法律上ノ位置ハ家督相
續ニ付キ胎兒ノ爲メニ相続財産ヲ管理スルカ如シ其金額ハ會社カ成立スルニ
至リタルトキ直チニ會社ノ有ニ歸スルモノナリト謂フヲ要當トス
第三 創立總會ノ招集及其決議
各株ニ付キ第一回ノ拂込アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集ス
ルコトヲ要ス創立總會ニ關スル規定ハ發起人ヲ監督シ其不正ノ利ヲ食ルコト
ヲ防キ會社ノ設立ニ際シテ起ルヘキ種種ノ弊害ヲ矯正シ會社ノ基礎ヲ確立ス
ルヲ以テ其目的トス創立總會ハ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上
ヲ引受ケタル者出席スルニ因リテ成立ス創立總會招集ノ方法株式引受人ノ議
決權決議ノ無効宣告等ニ付テハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用セラル故ニ後ニ
述ズル株主總會ニ關スル説明ヲ參照スヘシ創立總會ハ決議ノ方法ハ第百三十
一條ノ規定アリ即チ株式引受人ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタ

ル者出席シ其議決權ヲ過半數ヲ以テ一切ノ決議ヲ爲スハ非即以テ其議決權ヲ行使スルニ限リ
創立總會ニ於テ爲スヘキ事項ハ大別シテ二トスルコトヲ得一共會社ノ設立ニ
關シ報告ヲ應クコト他ハ決議ヲ爲スコト是ナリ以下項ヲ分テ説明スヘシ
第一 報告ヲ應クコトニ關シテ創立總會ニ報告スル事項ハ
(イ)發起人ハ會社ノ創立ニ關スル事項ヲ創立總會ニ報告ス第一三二條
(ロ)取締役及ヒ監査役ハ(二)株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ(三)各株ニ付キ第百
二十九條ノ拂込アリタルヤ否ヤ(四)第百三十二條第三號乃至第五號ニ揭ケタ
ル事項ノ正當ナルヤ否ヤヲ調査シ之ヲ創立總會ニ報告ス第一三四條第一項
取締役又ハ監査役中發起人ヨリ選任セラレタル者アルトキハ創立總會ハ特
ニ検査役ヲ選任シ其者ニ代リテ以上ノ調査及ヒ報告ヲ爲サシムルコトヲ得
(第一三四條第二項)
發起人取締役又ハ監査役方創立總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽
シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラル發起人方調査ヲ妨ケタルト
キハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處セラル(第二六二條第一號第二二二條第四號)

代理商ト異ナレモ又ナリ面シテ又仲立人ノ媒介ニ依リテ商行爲ヲ爲ス當事
者ハ必スシテ商人タルコトヲ要セサルナリハ附屬一取

(四) 仲立人ハ他人間ノ商行爲ヲ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ナリ故ニ營業トシテ
之ヲ爲ス者ニ非ナシハ仲立人ト謂フニ非テ得サルナリ故ニ創立總會ニ報告ス
(五) 仲立人ト其媒介シタル商行爲ノ當事者トノ關係ハ一種特異ナルモノナリ仲立
人ト之ニ媒介ヲ委託シタル一方ノ當事者トノ關係ハ民法第六百五十六條ノ所
謂單委任契約ナルモノト謂フニ非キ仲立人方媒介ノ行爲ヲ爲ストキハ之ノ同
時ニ他ノ一方ノ當事者トノ關係ニ於テモ亦單委任契約成立スルヲ常トス
ルモノト謂フニ非キ何レナルニ次ニ説明スハ仲立人ノ權利及ヒ義務
ニ付テ仲立人ハ當事者雙方ニ對シ同様に各種ノ義務ヲ負ヒ又同時に當事者
雙方ニ對シテ報酬ヲ請求スル權利ヲ有スルモノナリ(以下ウチ)第三三七頁及ヒ
(以下)第四三三頁參照(行社)仲立人原本受託ノモノイテハ其行爲ハ
第二 仲立人ノ義務
新商法ノ規定ニ依リテ仲立人ハ義務第四ノ見本保管ノ義務結約書作成交收

57

大

1

項

ルコトナク唯日付ノ取引其他財産ニ影響ヲ及ボス者ハ其初ノ事項ヲ記載スル
キコトヲ定メタリト雖モ仲立人ハ其帳簿ニ結納書ニ記載スル事項ヲ記載ス
ルコトヲ要ス(第三〇九條第一項第三〇八條第三項)
又當事者ノ何時ニテモ仲立人ノ自己ノ爲メニ媒介シタル行爲ニ付其帳簿ヲ
原本ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テモ仲立人ハ其氏名又ハ商號ヲ相手方ニ
示ササルヘキ旨ヲ命ジタル當事者ノ氏名又ハ商號ヲ記載スルコトヲ得ナルモ
トス(第三〇九條第二項第三一〇條)
茲ニ多少ノ問題ヲ爲ルヘキハ仲立人カ商業帳簿ヲ備フル義務ヲ有スル小商
人ナル場合ニハ日記簿ヲ備ヘ之カ原本ヲ交付スル義務アリ云フ再在ニ
逸商法ニ於テハ仲立人カ小商人ナラズ(所謂 *travelling agent* 又ハ *commission agent*)
稱スルモノハ結納書及日記簿ニ關スル規定ヲ適用セサルコトヲ明定セリ(同
逸商法第一〇四條我商法ヲ解釋トシタル小商人タル仲立人ト雖モ日記簿ヲ備
フルノ義務アリトスルヲ以テ當レリトセンカ)
(四) 前ニ述ヘタルカ如ク仲立人ハ他人間ノ商行爲ヲ媒介スルニ止マリ自ら當

事者ノ地位ニ立テテ行爲ヲ爲ス者ニ非サルヲ以テ其媒介シタル行爲ニ因リテ
權利ヲ得義務ヲ負フコトナキモノナリ然レトモ仲立人カ當事者ノ一方ノ氏名
又ハ商號ヲ相手方ニ示サザリシトキハ之ニ對シテ自ら履行ヲ爲ス責任(第
三一一條) 茲ニ仲立人ハ自ラ當事者ハ一式ニ取立ニ立キ銀行ニ於テ其合
此規定ハ相手方保護ノ爲メニモモ大キハ仲立人ハ自ラ履行ヲ爲ス義務ヲ
負フニ止マリ同屋ノ場合ニ於テ其自ラ當事者ノ地位ニ立テハ權利ヲ有
スルモノニ非サルナリ(第三一七條參照換言スレバ仲立人ハ余入 *(Solvent)* ノ
義務ヲ負フモノナレバ權利ヲ有スルモノニ非サルナリ(同條參照) 茲ニ仲立人ノ義務ニ關スル説明ヲ爲スニ當リ一言注意スルニ前ニ述ベタル
如ク以上列舉ノ義務及ヒ其他民法ノ委任ノ規定ニ依リテ生ズヘキ仲立人ノ
義務ハ當ニ仲立行爲ヲ委任シタル當事者ニ對シテ之ヲ負ヘルニ止マリ其相
手方ニ對シテモ之ヲ負ヘルモノナラズ以テ其義務ニ違背シテ損害ヲ與ヘル
當事者ニ對シテモ損害ヲ賠償スル義務アリ是レ仲立人ノ地位ノ特殊ナル所以
ナリトス(同法第九十八條ハ明文ヲ以テ其趣旨ヲ定メタリ)

物品ヲ買受ケル之ヲ需要者ニ販賣スル自己ノ爲メ圖アル商人ヲ指セシメ以テ之ヲ問屋ト改メタリト云修正案參考書ノ附シタル所ナレトモ問屋ナル名稱果シテ能ク其實ニ合ヘルカ疑キコト能ハサルモノアリ

問屋ノ制度ハ羅馬法ニ於テ之ヲ見ルコト能ハス然レモ契約ノ種類ト別テハ羅馬法ニ於ケル委任(マシダト下ク)ノ一種ト附シテ其得ル中古第十五六世紀ノ頃國際間ノ商業勃興スルハ問屋ノ制度亦之ニ伴ヒテ發生スルニ至リ即チ外國ニ代理人ヲ派シテ物品ヲ買入又ハ販賣等ヲ爲サシムルヲキル代理人ヲ其信用ヲ濫用シテ損失ヲ被ラシムルノ危險ナルヲモナサズ商業ノ繁興ニ拘ハラス之ヲ常設スルトキハ多クノ費用ヲ要シ其他外國ニ在リテ取引スルニハ其國人ノ手ヲ經ルニ非ザレバ諸般ノ點ニ於テ不便尠カラサルコトアル以テ他人ノ爲メニ商行爲ヲ爲ス者ニ委託シテ之ヲ爲サシムルヲ便トシ終ニ問屋及ヒ運送取扱人ナル者ヲ生ズルニ至レルナリ

二 問屋ノ原文モ原其意則代理人ト比シテ問屋ニ委託シテ商行爲ヲ爲サシムルヲ使ナル點ヲ舉ケレバ以上ニ述ヘタル危險及ヒ費用ノ二點以外相手方ノ問屋ト取引スルコト以テ本人ノ

實力及び代理人代理權に有無及範圍等ヲ調査スルニ必要ヲ感ズル所ノ結果取引ヲ欲活ヲ得ルヲ又表面ニ立テテ取引ヲ爲ス者ハ委託者自身ニ非シシテ問屋ナルヲ以テ委託者問屋ニ信用及ヒ實力ヲ利用スルモノト得ヘキ同時ニ問屋ノ業務上ニ於ケル經驗及ヒ知識ノ利益ヲ被ルモノト得ヘキナリ問屋ニ委託シテ取引ヲ爲スモノト利益ハ此等如ク大ナクナリ以テ近時漸及ヒタリ問屋營業ハ商業ヲ精微問屋ハ商業ノ不可缺ノ機關ト爲ルに至リテ強賣又ハ買入第一ノ問題ノ意義ヲ計欲メ珍品ノ運賣又ハ買入ニ關シ其曲メ計欲メ欲メ答メ問屋トシテ自己設名ヲ以テ他人賣爲メ物品ヲ販賣又ハ買入賣爲メ商業ト爲ル者ヲ謂フ第三三條舊商法ニ遊ベタリ問屋トシテ賣入答メ以テ出賣ハ精賣者ト問屋ト自己ノ名ヲ以テ否ニ然點而於テ代理人由品ハ代理人個人名義以テ他人賣爲メ或行爲ヲ爲ス者ナリ問屋ハ自己ノ名ヲ以テスル者ニシテ學者ノ所稱間接代理者屬スル所然レども主ク其時金貨ノ歸夫ハ其出商人ノ利益トナシ他人賣爲メ主ク其點夫於普通通常商人即チ所謂自己ノ名ヲ以テ賣入者商人

三九四條民法は、於テ其ノ相反シテ別段ノ意思表示又ハ習慣ナキ限リ、同屋
當ニ此義務ヲ負フモノナリ(第三三五條)答マシメテ委託事務ニ對シテハ當
此場合ニ於テハ同屋ハ保證人ナリ類似シタル位置ニ立テトモ保證人ニ如ク後例
ノ利益檢索ノ利益ヲ有セス然レトモ相手方ノ債務カ存在セサル限ハ此義務ナ
ク相手方ノ債務ト其範圍ヲ同シタルモノニ至ラザル保證債務ノ場合ト異ナルコ
トナキニシテナリ(參照前ノ附錄ノ變遷ニ關シテ對照ニ致シテ詳論セヌベシ)

(三)同屋ハ委任メ本旨ニ違背セラル行爲ヲ爲スコトヲ得ス若シ此ノ如キ行爲ヲ
爲ストキハ委託者ハ其行爲ヨリ生スル結果援引受テ格コトヲ拒絕シ尙ホ損害
アリタルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第二六七條)然レトモ委託者カ代
金ヲ制限(Limit)ヲ定メタル場合ニ付テハ特別規定アリタ同屋ハ其制限ニ違ヒ
タル場合ニ於テモ其制限額ト實際ノ販賣又ハ買入ノ金額トノ差額ヲ負擔スル
トキハ其販賣又ハ買入ハ委託者ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトナシ(第三六六
條)然レトモ同屋カ委託者ノ定メタル制限ニ違ヒタル結果ニ因リ委託者ニ對シ
テ其差額以上ノ損害賠償ノ義務ヲ負フモノトナシ委託者ハ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

キハ勿論ナルヘシ(獨逸商法第三八六條第二項參照)而テ、
委託者カ定メタル制限ヨリ高價ニテ販賣ヲ爲シ又ハ廉價ニテ買入ヲ爲シタル
場合ニ於テ其利益カ委託者ニ歸スルヤハ當然ノ事ナリトモ獨逸商法第三八七
條參照)然レモ其間須知イ實價ノ運賣又ハ買入ノ金額ノ命シ其以上ニテ販賣
委託者カ特定ノ金額ニテ販賣又ハ買入ヲ爲スヘキコトヲ命シ其以上ニテ販賣
シ又ハ其以下ニテ買入ルルコトヲモ禁シタル場合ニ於テ之ニ違背シ其以上ニ
テ販賣シ又ハ其以下ニテ買入ルルコトヲモ如何此場合ハ本條ノ規定ヲ適用ス
範圍外ニ屬セリ故ニ委託者カ結果ヲ引受タルコトヲ拒絕スルコトヲ得ヘ
シ此ノ如キ場合ハ委託者カ相場ノ變動ニ因リ投機ヲ爲シテ利益ヲ受ケントス
ル場合ニ實際生スルコトアルヘシ(スタウプ註釋書第一四三七頁)買入
第三項同屋ノ權利ヲ得タルモノニ屬スルモノハ前項ニ準テ之ヲ適用スルモノ
(一)同屋ノ委託者ヨリ自己ノ支拂タル代金其他各種ノ費用ヲ償還ヲ受ケ(民
法第六四九條第六五〇條第二項其他委託者ヲシテ委任事務ヲ處理スルニ當リ
テ自己カ負擔シタル債務ヲ辨濟セシメ(民法第六五〇條第二項受ケタル損害ヲ

ル目的ト當事者ノ意思ニ於テ直接ニ保險者ノ責任ヲ開始セラルルコトヲ豫想
シ得レバナリトモ、
茲ニ保險期間ノ中断ナルモノアリ即チ契約セラレタル一定ノ期間中或危險
發生シテ之カ繼續セラル間ハ賠償ノ責任ヲ免ルト約スル場合ノ如キ或ハ船舶
契約ノ航路以外ニ寄港シタル場合ニ其特別航路中ニ於ケル危險ヲ負擔セザル
カ如キ即チ是ナリ又保險料ヲ延滞申其效力ヲ中止スル場合アリ而シテ之ニ二
種ノ結果アリ一ハ危險不可分ノ理由ニ基キ中止シタル期間中ノ保險料ヲ返還
セザルモノトシ一ハ豫メ定メタル約款ニ依リ之ヲ拂戻スルモノトモ但死亡保險
ノ如キニ在リテハ中断ノ期間ニ對シテモ保險料ヲ支拂フヘキモノトセリ
保險期間ノ短縮ト云フコトアリ即チ期間満了前ニ契約ヲ終了スル場合ニシテ
或ハ新ナル合意ニ因リ或ハ危險ノ變更増加ニ因リ或ハ約定セラレタル損害
基因シテ發生ス但第三ノ場合ニハ二種ノ結果アリ(一)損害發生ノ爲メ期間ノ
終ル場合アリ即チ人類ヲ被保險家者ノ死亡等ノ場合ナリ(二)保險金額ノ一部
カ支拂ハレタル場合ニハ他ノ部分ニ付テハ殘餘ノ期間存在スルカ如シ但此場

ルモ事實ハ一種ノ定時契約ニ外ナラズ唯普通ノ定時契約ニ於テハ三週間ト云
ハ横濱柔港間タルト横濱孟買間タルト他ノ何レタルト間ヤス此場合ニ特
ニ一定ノ航海ヲ指定シタルモイナリ歐洲ノ實際ニ於テ混合契約者尙ノ如ク
解釋セラレ且最モ普通ニ行ハレ居レリ今ニ將創設ノ責任ノ負擔ニ與テ並ニ
保險契約ノ關係者ハ第一、保險者第二、被保險者第三、保險契約者第四、保險金受取
人第五、彼等ノ代理者トス其間ニ於テ各異ナル權利義務關係開闢セラル

第四節 保險契約ノ關係者

第一、保險者ニハ半額十二種ノ種類ニ分ケルモ其間ニ於テ一箇人ナ
保險者ハ保險契約ニ於テ損害填補ノ責任ニ任スル當事者ニシテ昔ハ一箇人ナ
ト會社若クハ組合ノ如キ團體ナルトヲ問ハス殊ニ中世寺院法ノ制限ニ依リテ
利子ヲ徵シテ貸金ヲ爲スコトヲ禁セラレシ時代ニ富豪家ハ貸金業ヲ止メテ海
上保險業ヲ營ム者多カラシ以テ一箇人ノ保險者少カラサリシカ近來世界各國
ノ法律ニ於テ一箇人ノ保險者ヲ認許セス之ヲ會社又ハ組合ニ限レリ且又昔時

ト雖モ一箇人ノ保險者ハ海上保險ヲ除ク外其例ヲ見サ所カ如此等ノ現象ハ
畢竟保險制度ノ本質ニ基キタル結果ニシテ保險者ト云ハルハ必ズ多數ノ被保險
者ニ對シテ同時ニ契約ヲ結ビ廣ク且大ナル責任ヲ有スルモノナルカ故ニ社會
ノ安寧ヨリ論スルモ鞏固ナル財力ヲ有シテ十分ニ永久ニ其責任ヲ盡シ得ルモ
ノナラサルニカラス而シテ此必要ニ應スルモノハ一箇人ヲ以テスニ非サルカ
故ニ會社若クハ組合ニ限ルトシ尙ホ進ミテ會社ニ株式會社ニ非サレハ不可ナ
リトノ立法例ヲ作ルニ至レリ此等ノ點ニ付テハ保險會社法ヲ觀スニ方リテ詳
論スルヲ待ツベシ蓋シテ保險會社ノ性質ニ對シテ詳ニ論ズルニ非ズルカ
第二、被保險者ニハ保險利益ノ所有者ニシテ所謂損害ヲ被ルコトアル者ニ非ズ
被保險者ハ被保險利益ノ所有者ニシテ所謂損害ヲ被ルコトアル者ニ非ズ
カ故ニ保險者ニ對シテ契約ノ當事者タルヲ普通ノ場合トス例ヘハ自己ノ船舶
又ハ家屋ニ付テ海上又ハ火災ノ保險契約ヲ締結シ即チ保險料支拂ノ義務ヲ負
ヒ其代リニ損害ノ填補ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ハ即チ被保險者ナリ而シテ
被保險利益ノ所有者トハ被保險物ノ所有者ト混同スベカラズ被保險利益トハ

義ニ解説シタルカ如ク被保險物ト之カ利害關係ヲ有スル人ト之間ニ存在スル關係ヲ指スモノニシテ家屋ノ借主荷物ノ質權者ノ如キ被保險利益ヲ有スルモノナリ
一ノ被保險物ニ付テハ一人ノ被保險者アルヲ普通ノ場合トスル雖時ニ因リテハ數多ノ被保險者アル場合アリ例ヘバ或數量ノ荷物若クハ一箇ノ家屋ニ對シ質權者タハ抵當權ヲ有セル債權者カ其債權ノ範圍内ニテ被保險利益ヲ有スルト同時ニ該荷物若クハ家屋ノ所有者カ其上ニ被保險利益ヲ有スルカ如シ此場合ハ一ノ物ノ上ニ數多ノ被保險者アル場合タリ又一ノ保險契約ニ於テ數多ノ被保險者アル場合アリ同種類ノ事業ニ從屬シ同一程度ノ危險ニ臨ム所ノ職工其他ノ勞働者ノ多數ヲ被保險者トシテ一箇ノ怪我保險又ハ生命保險ヲ附スル場合ノ如シ此ノ如キヲ集合保險ト謂フ
被保險者タルノ資格ハ被保險利益ヲ有スルニ在リ家屋ノ所有者ハ家屋ノ損耗ニ付テ損害ヲ被ルコトアルカ故ニ之カ保護ヲ受ケンカ爲メニ被保險者タルヲ得ルナリ之ト同時ニ吾人ハ自己ノ生命ノ死傷ニ因リテ損害ヲ被ルコトアルカ

故ニ之カ損害ヲ避ケンカ爲メニ被保險者タルヲ得ルナリ自己ノ生命ノ損耗ニ因リテ損害ヲ被ルコトハ一見奇怪ノ感アルモ例ヘバ吾人カ七十歳マテ生存スルトキハ生活力衰耗シ勞務ニ服スルコト能ハサルカ故ニ養老金ノ必要アルカ如キ或ハ死亡シテ損害ヲ惹起スルカ如キ即チ是ナリ
論者曰ク彼カ死亡シテ損害ヲ惹起スト云フコトヲ許ストシテ之カ填補ヲ受タル所ノ自身ハ既ニ死セラルカ故ニ死セル者カ填補ノ利益ヲ受タルコト不能ナリ且又損害其モノスラ死シテ後ニ生スルコトハ想像スヘカラサルナリ此ノ如キ反對說ニ對シテハ死者自身ヨリハ其相續者カ損害ヲ被ルヘク又填補ヲ受テヘク假定シテ自己カ被保險者ト爲レリト解釋スルノ外ナシ然レ而シテ人ハ自己ノ生命ニ付テ利害ヲ有シ被保險者タルヲ得ルト同時ニ他人ノ生命ニ付テ利害ヲ有スル場合頗ル多シ例ヘバ親カ子ノ生存ニ付テ利益ヲ受ケ妻カ夫ノ死亡ニ因リテ損害ヲ被ル場合ノ如シ此ノ如キ場合ニハ親又ハ妻カ被保險者ト爲リテ子又ハ夫ノ生死ニ付テ利益ヲ保護スヘキヲ至當トス然レモ我國ノ習慣及ヒ法律ニ於テハ此ノ如キ場合ニ於ケル親又ハ妻カ被保險者ト云ハス被保險

結ハシムルヲ便利スル場合アリ例ハ利益ノ所有者中ニモ之カ保管ヲ爲ス者若クハ之カ使用ヲ爲ス者又ハ之カ買取主其他類似ノ關係ヲ有スル者被保險者ノ爲メニ該利益ヲ保護スルコト爲メ之ヲ而シテ之ニ二箇ノ場合アリ即チ一ハ中間ノ人カ自己ノ名ヲ以テ契約ヲ取結シ場合ニシテハ被保險者ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス場合はナリ前者ニ於テハ仲立人ノ地位ヲ取リ後者ニ於テハ代理者ノ地位ヲ取ル自己ノ名ニ於テ契約ヲ締結シタル者ハ契約ノ當事者トシテ總テリ義務ヲ有シ之ヲ保險契約者ト稱ス故ニ前述ノ第一ノ場合ニハ中間ノ人カ保險契約者ニシテ第二ノ場合ニハ被保險者自身カ保險契約者ナリ又被保險者ト稱ス被保險契約者カ別人ナル保險契約ニ於テハ之ヲ他人ノ計算ニ於テ所保險ト稱ス是レ被保險者ノ方面ヨリ附シタル名稱ナレトモ保險契約者ノ方面ヨリ觀レバ之ヲ第三者ノ爲メニスル保險契約ト謂フ茲ニ商人アリ一部ハ自己ニ屬シ一部ハ其知人ニ屬シ一部ハ不知ノ第三者ニ屬シタル貨物ヲ集合テ保險ニ付スル場合ニ於テ第一ノ部分ニ付テハ自己ノ計算ヲ以テ第二ノ部分ハ其名ヲ以テ第三ノ部分ハ單ニ其所有者ノ計算ニ於テ契約ヲ締結シタル場合ニハ第

一部ニ付テハ彼カ保險契約者タルト同時ニ被保險者ナリ第二部ニ付テハ單ニ保險契約者ナリ而シテ第三部ニ付テハ代理者ナリ又保險契約者ニシテ我商法ハ何人カ保險契約ヲ締結スルモ之ヲ妨ケザルノ主義ヲ採リ其第四百一條ニ保險契約ハ他人ノ爲メニスル之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フトアリ理論上ニ於テ且物保險ニ於テハ上述ノ如ク保險契約者ヲ全ク被保險者ト無關係ナル者ニ許シテ可ナルヘシ即チ保險契約ノ利益ノ享受者ハ被保險者若クハ法律上ニ制限セラレタル保險金受取人ナルカ故ニ利益ヲ受クルコトヲ得タル保險契約者カ惡意ヲ以テ契約ヲ締結スルカ如キ愚ヲ演スルコトヲアリ得ヘカラス左レハ何人ニ保險契約者タルコトヲ許スト雖モ毫モ弊害若クハ危險ヲ起ス虞ナシト謂フヘシ然レトモ生命保險ニ於テハ實際ニ危險ナル結果ヲ惹起スコトアリ例ハ保險契約者カ利害ノ關係薄キ或ハ關係ナキ若クハ利害ノ相反セル人ヲ被保險者トシ巨額ノ保險金ヲ契約シテ之ヲ得シカ爲メニ被保險者ヲ害シ若クハ其生命ヲ短縮シ而シテ雖モ保險金受取人ヨリ委任狀ヲ取置キ其保險金ヲ掠奪スルノ弊害屬

之アリ故ニ生命保險ニ付テハ此點ニ於テ他ノ保險ト區別ヲ爲シ保險契約者ト被保險者トノ間ニ親族若クハ財産上ノ關係ヲ必要トスルコトニ規定セシメテ望ム者ニ關シテハ保險契約者ト被保險者トノ間ニ財產上ノ關係ヲ要スルコトヲ規定セシカ新商法ハ此制限ヲ撤去セリ是レ舊商法ニ在リテハ保險金受取人ノ資格ヲ制限セテシカ新商法ニ於テハ之ヲ制限シタルニ據ル然レトモ保險契約者カ被保險者ニ知ラシメスシテ契約ヲ締結セシトスル場合ニハ或ハ自ラ其財産ノ所有者タルカ如クニ假裝シ同時ニ被保險者ト爲ラテ不正ナル保險契約ヲ成立セシメシトスル虞ナキニ非ス故ニ商法ハ保險契約者カ他人ノ爲メニ契約ヲ結ハシトスルトキハ其旨ヲ保險者ニ通知セシメ之ヲ通知セテリシ場合ハ該契約ヲ無効ナラシムル旨ヲ規定セリ而シテ保險契約者カ被保險者ノ委任ヲ受ケタル場合ニハ被保險者ニ於テ契約ノ存在ヲ知レルカ故ニ詐欺ノ行ハルル虞ナク隨テ之ヲ保險者ニ通知スルノ必要ナキナリ

次ニ保險契約者ハ契約ノ當事者ナルカ故ニ一般ノ契約ヲ締結スル能力アル者

ナラサルヘカラス故ニ法律上ノ無能力者ハ保險契約者タルヲ得ス彼等カ締結シタル契約ハ一般法律上ノ原則ニ依リテ不成立又ハ消除シ得ヘキモノトス但保險契約中生命保險契約ハ一般人類ニ普通必要ナル行爲ニシテ之ヲ結フコトハ財産ヲ處分運轉スル程ノ大事件ニ非ス隨テ大ナル損失ヲ蒙ルヘキ性質ノモノニ非サルカ故ニ法律上ノ無能力者ニモ保險契約者タルコトヲ許ス例ヘハ妻カ夫ノ許諾ヲ得シテ保險契約者タル場合未成年者カ後見人ニ依ラヌシテ自ラ契約ヲ締結スル場合等ニ於テハ外國ニハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ認ムル處アリ例ヘハ既婚婦財產法ニ於テ前者ヲ規定シ又未成年者ノ結ビタル保險契約ハ未成年者ヲ拘束セザレトモ保險者ヲ拘束スト定ムル處アルカ如シ我國ニ於テハ別ニ此等ニ關スル法律ナキヲ以テ無能力者ノ締結セル保險契約ハ總テ無効トセサルヘカラサルナリ

次ニ英國ニ於テハ保險契約者ニ似テ一種特別ノ者アリ即チ證券所持人ニシテ被保險者以外ニ立テテ契約ニ對スル權利義務ヲ有スルモノナリ權利トシテ保險金受取ノ權利ヲ初メトシテ其他ノ利益ヲ受タルコトヲ得義務トシテハ保險

料支拂ノ義務ヲ有セ而シテ保險者トハ如何ナル關係ニ於テ立ツヲ問ハサルナ
リ火災保險海上保險其他ノ物ノ保險ニ於テハ保險契約ノ利益ヲ受クヘキ者ハ
必ス被保險利益ヲ有スル者ナラサルヘカラサルカ故ニ被保險者以外ニ斯ル者
ヲ許サスト雖モ生命保險ニ在リテハ保險証券カ他ノ有價証券ノ如ク特ニ讓與
セラレ之ヲ讓受ケタル者カ保險契約ニ對スル權利義務ヲ有スルコト爲リ被
保險利益ノ存在ハ契約成立ニ際シテハ必要ナルモ其後ハ之ヲ要求ストモリ
此ノ如クニシテ毫モ弊害ノ發生セサルハ全ク社會ノ德義ハ進歩ト保險ノ利用
ノ廣大ナルトニ原因スルモノナリ故ニ保險契約ノ關係者ハ保險契約ノ關係者
第四 保險金受取人 保險契約ノ關係者ハ保險契約ノ關係者ハ保險契約ノ關係者
事故發生ニ際シテ損害ヲ被ル者ハ被保險者ナルカ故ニ之カ填補即チ保險金ヲ
受クヘキ者モ亦被保險者タルヘキハ當然ナリ然レトモ生命保險ノ如ク被保險
者ノ死亡ヲ損害トスルコトアル場合ニ於テハ保險金ヲ受クヘキ者既ニ死レテ
在ラサルカ故ニ別ニ保險金受取人ヲ指定スルノ必要屢發生ス商法第四百二十
八條ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者其相続人又ハ親族ナルコトヲ要ス

トアリ而シテ被保險者ノ死亡ノ場合ニ於テハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指
定シ得ルヤト云フニ必スシモ然ラス被保險者生存中ニ保險者ヨリ支拂フ所ノ
金額ヲ受取ル爲メニ他ニ受取人ヲ定メ得ルコト勿論ナリ例ヘハ養老保險ノ如
キ被保險者カ一定ノ老年(假ニ六十歳トシテ)ニ達シテ保險金ヲ支拂フ受クル
當リ其子カ之ヲ受取ルヘキ契約ヲ爲スコトヲ妨ケサルカ如キ是ナリ然レトモ
損害保險ニ在リテハ損害ヲ被ルヘキ者ハ被保險者以外ニ存スヘカラサルカ故
ニ被保險者以外ニ保險金受取人ナル者發生スルヲ認メサルナリ是ニ於テカ蓋
ニ違ヘタル如ク生命保險ニ於ケル保險金受取人ナル者ハ損害保險ニ於ケル被
保險者ニ該當シ生命保險ニ於ケル被保險者ハ損害保險ニ於ケル目的物例ヘハ
家屋船舶等ニ該當スト謂フヘシ故ニ生命保險ニ於テ保險金受取人ノ性質ヲ研
究スルニハ損害保險ニ於ケル被保險者ニ關スル法理ヲ適用スルヲ以テ至當ナ
リトス我商法ニ於テハ損害保險ト生命保險トヲ嚴格ニ區別シ前者ニ於テハ利
益ナル文字ヲ用ヒ後者ニ於テハ之ヲ言ハス恰モ生命保險ニハ被保險利益ナル
モノヲ契約ノ要素ト爲サルカ如キ觀ヲ爲セリト雖モ苟モ生命保險ト謂ヒテ保

險ノ一種ナリトスル以上ハ危險ニ對シテ或事項ヲ保證スル行為ヲ指スモノト
謂ハサルヘカラス然ラハ或事項トハ何ヲ指セト云フニ危險ノ爲ニ損害セ
ラルル所ノ利益ヨリ他ニ想像スルコト難シ然ラハ生命保險ニ於テモ被保險利
益ヲ契約ノ要素ト看做セリト謂ハサルヘカラス而シテ其要素ハ何ナルヤト云
フニ保險金ヲ受取ルヘキ者カ被保險者ニ對シテ有スル所ノ利益關係ナラサル
ヘカラス但被保險者自身カ自身ニ付テ利益關係ヲ有スル場合ハ保險金受取人
ヲ兼テ然ラサル場合ニハ其相續人又ハ親族カ被保險者ノ身體ノ上ニ利益關係
ヲ有スルノ差アルヲ然ラハ保險契約ノ當時保險金受取人ヲ指定セサル契約
ハ無効ナルヤト云フニ決シテ然ラス明文ヲ以テ指定セストモ當然ノ理由又ハ
暗黙ノ指定ニ因リテ保險金受取人ヲ決定サル場合ハ契約ヲ以テ有効ト看做
ササルヘカラス例ヘハ養老保險ヲ契約シ保險金受取人ヲ指定セサル場合ハ被
保險者自身當然受取人ト爲リ又混同養老保險ニ於テ或年齡ニ達スルヤテニ死
亡シタル場合ニハ被保險者ノ相續人カ當該保險金受取人ト推定セラレルカ如
キ是ナリ

トハ收斂者ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ得ンコトヲ求ムルコトヲ謂フ故ニ當事者
カ他ノ者ニ不利益ナル裁判ヲ得ンコトヲ求ムル場合ニ於テハ其相手方ナル
ノアリト謂フヘキ申立既テ其間ニ言明モ得ンコトヲ申立タル當事者ハ申立
當事者カ裁判所ニ申立ヲ爲ス以テ自己ニ利益ナル裁判ヲ得ンコトヲ求ムル
立ノ法律上正當ナルコトヲ必要トス換言スレバ當事者ハ法律ノ規定ニ從ヒ申
立ノ基礎タル權利ヲ有スルニ非ザルハ決シテ其欲スル裁判ヲ得ルコト能ハサ
ルナリ申立ノ基礎タル權利ハ當事者カ或一定ノ裁判所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ
得ル權利及ビ當事者カ自己ニ利益ナル裁判ヲ得ンコトヲ求ムル權利トヲ指ス
モノナリ故ニ或裁判ヲ得ンコトヲ求ムル當事者ハ其中立ノ基礎タル此二箇ノ權利ノ
存在ヲ明カニセサルヘカラス

當事者カ或裁判ヲ得ンコトヲ求ムル場合ニ於テ相手方カ當事者ハ申立
正當ナルトキハ是ヒ即チ其申立ノ基礎タル權利ノ存在ヲ求ムルモノナリ此
場合ニ於テ其權利中當事者ノ意思ニ依リテ左右シ得ルモノナリトキハ裁判所
ハ直チニ其存在ヲ認めサルヘカラス以テ申立ヲ爲シタル當事者ノ其權利

ノ存在ヲ明カニスルノ要ナシ然レトモ裁判所ニ職權上當事者ノ或一人ノ裁判
所ニ對シ現ニ繫屬中ノ訴訟手續ニ於テ裁判ヲ求ムルノ權利ヲ有スルヲ否
明カニスヘキモノニシテ此權利ハ當事者ノ意思ニ依リテ之ヲ左右スルコト能
ハサルモノナルヲ以テ當事者ハ相手方ヲ承認シタル場合ニ於テ其存在ヲ明
カニスルノ必要アリト謂ハサルヘカラス
相手方ハ當事者ノ申立ノ基礎タル權利ノ存否ヲ問ハス其權利ハ效力ヲ妨
キ自己ノ權利ヲ主張シ以テ當事者ノ申立ヲ却下スル裁判ヲ得ンコトヲ申立
ルコトヲ得ルモノナリ例ヘハ當事者ノ一方ハ相手方ニ物ヲ引渡シ言渡サシ
トヲ求メタル場合ニ於テ相手方ハ留置權ヲ主張シ以テ其當事者ノ申立ヲ斥ケ
シトスル場合ノ如シ
右ニ述ヘタル所ニ反シ相手方ハ當事者ノ申立ヲ基礎タル權利ノ存在ヲ申
トヲ主張シ以テ其申立却下ノ裁判ノ言渡ヲ得ンコトヲ申立タルトキハ申立
人ハ申立ノ基礎タル權利ノ存在ヲ示シ以テ其申立右法律上正當ナルコトヲ明
カニセサルヘカラス凡ソ權利未だモハ法律ノ規定ニ依リ一定ノ事實ニ伴

テ發生スルモノナルヲ以テ權利ノ存在ニ其原因タル法律上ノ規定及ビ一定ノ
事實ニ伴フモノト謂ハサルヘカラス之ヲ要スルニ權利ハ法律上及ビ事實上ノ
原因ニ依リテ發生スルモノト謂フヘシ故ニ或裁判ヲ得ンコトハ當事者ハ其中
立ノ基礎タル權利ノ存在ヲ明カニスルヲ爲メ法律上ノ規定及ビ一定ノ事實ニ
シテ權利發生ノ原因タルモノニ存在ヲ闡明シ且右ノ法律上ノ規定及ビ一定ノ
事實ニ依リテ其權利ノ存在ヲ來スニ至ルヘキモノタルコトヲ主張スルニ付キ
利益ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ裁判所ハ法律ヲ知ラサルカ
ラサルモノナルヲ以テ若シ或場合ニ於テ適用上生ズヘキ法律ノ存在スルヤ否
ヤヲ知ラサルトキハ自ラ之ヲ研究セサルヘカラス決シテ當事者ノシテ法律上
ノ規定ノ存在ヲ證明セシムルコトヲ得ス故ニ當事者ハ法律上規定ノ存在ヲ主
張シ且之ヲ明カニスルヘキ法律上ノ必要ハ存在セサルナリ唯當事者ハ其利益ノ
爲メ法律上ノ規定ノ存在ヲ證明スルコトヲ得ルハ疑ナキ所ナリ此ノ如ク裁判
所ハ當事者ヲシテ法律上ノ規定ノ存在ヲ證明セシムルコトヲ得サルモノナリ
ト雖モ當事者カ慣習法又ハ外國法ヲ引用シタルトキハ裁判所ハ例外トシテ當

事者ヲシテ其存在ヲ證明セザルモノコトヲ得ルモノトス又裁判所ノ法律ヲ或事
 實ニ適用シテ當事者ノ申立タル裁判ヲ爲スモノハナルヤ否ヤヲ自ラ判斷
 スベキモノニシテ此法律上ノ判斷モ亦當事者ノ之ヲ爲スコトヲ必要トス然レ
 ニ非ス然レトモ當事者ノ自己ノ利益ノ爲メ裁判所ニ對シテ自己ノ法律上ノ
 判斷ヲ陳述スルヲ得ルハ言フ族タズ然レモ當事者ハ被告ノ陳述ハ被告ノ主
 張ニ違ヘタル所ニ反シ當事者ノ權利ノ基礎タル事實ヲ主張ス且之ヲ證明スル
 キ法律上ノ必要アリモモトス是ハ即チ所謂辨濟主義ニ依テ發生スル結果ナリ
 當事者ノ事實ヲ主張スルニ當リテハ其權利ノ存在ヲ明カニ爲スル一切ノ事實
 ヲ主張スルコトヲ要セズ何トナレハ通常ノ場合ニ於テ權利ノ存在ヲ明カニス
 ルニ足ルベキ事實アルトキハ裁判所ハ其權利ノ存在ヲ認ムル更ニ以テナリ故ニ
 當事者ノ力通常權利ノ發生ヲ來スベキ事實ヲ主張スルトモ其發生ヲ妨グベキ
 事實ノ存在セザルコトヲ主張シ又ハ權利ノ消滅ヲ來スベキ事實ヲ發生セザル
 コトヲ主張スルノ必要ナキモノナリトモ然レモ被告ノ辯護士或ハ事實上ノ
 相手方ハ申立人ノ事實上ノ主張ニ對シ陳述セザルベカラズ然レモ法律上ノ

權利ノ存在ヲ明カニスル事實アルトキハ裁判所ハ通常權利ノ存在ヲ認定スルニ
ト雖モ其判斷ハ絕對ニ確實ナルモノニ非シテ權利ノ存在ハ原因タル事實
現ハルモノヲ正當ノモノト認メラルルニ過キス故ニ相手方ハ通常ノ場合ニ於
テ權利ノ存在ノ原因タル事實アルモノ例外トシテ其存在ヲ妨クヘキ事實ノ存在
ルコトヲ主張シ申立人ハ申立ヲ斥ケルコトヲ得ルナリ即チ相手方ハ權利ノ發
生ヲ妨タル事實若クハ權利ノ消滅ヲ來スヘキ事實ヲ主張シ以テ自己ノ利益ヲ
保全スルコトヲ得ルモノナリ此場合ニ於テ相手方ハ或事實ノ存在ヲ主張スル
ノ外其實力權利ノ發生ヲ妨ケ又ハ其消滅ヲ來ス原因ナルコトヲ明カニスル
爲メ其實實ニ權利ノ發生ヲ妨タル效力又ハ其消滅ヲ來ス效力ヲ付与スル法律
上ノ規定ノ存在ヲ主張スルニ外ナラザルヲ以テ申立人ト同シク法律上ノ規定
ノ存在ヲ主張シ且事實ニ付キ爭ハル場合ニ於テハ其證明ヲ爲メ必要アルモ
トト謂ハサルヘカラスハ必ズ其證明ヲ爲メ必要アルモノナリ
第三 處分行為 依リテ訴訟手續ヲ開始スルコトヲ得ルモノニ於テハ其證明ヲ爲メ必要アルモノナリ
當事者ハ其訴訟行為ニ依リテ訴訟手續ヲ開始スルコトヲ得ルモノニ於テハ其證明ヲ爲メ必要アルモノナリ

行為ニ依リテ之ヲ停止シ若クハ終了セシムルコトヲ得ルモノナリ當事者
ハ一時訴訟行為ヲ進行ヲ停止セントセハ訴訟手續ノ休止ニ付キ合意ヲ爲スコ
トヲ得ルモノナリ又民事訴訟法ニ於テハ當事者ノ申立ニ因リテ訴訟手續ノ中
止ヲ命スヘキモノト定ムルモノアリ此場合ニ於テハ當事者ハ其申立ニ因リテ
訴訟手續ノ進行ヲ停止スルヲ得ルナリ當事者ハ一旦開始セル訴訟手續ヲ終了
セント欲シ其開始ヲ來シタル申立ヲ取下ヲ爲シ以テ其目的ヲ達スルコトヲ
得ルモノナリ所謂訴ノ取下ニ其最モ著シキモノナリ當事者ノ訴訟手續ヲ進行
中裁判上ノ和解ヲ爲ストキハ又之ニ依リテ訴訟手續ヲ終了ヲ來スルコトヲ得ル
モノナリ單ニ事實上ノ主觀ハ其訴訟手續ヲ進行中裁判上ノ和解ヲ爲ストキハ又之
以上述べタル訴訟行為ハ何レモ訴訟ノ運命ヲ左右スル效力ヲ有ス故ニ訴訟上
ノ處分行爲カサリト謂フコトヲ得ルナリ其效力ハ其訴訟手續ヲ進行中裁判上
ノ和解ヲ爲ストキハ又之ニ依リテ訴訟手續ヲ終了ヲ來スルコトヲ得ルモノナリ
第四 攻撃方法及ヒ防禦方法 民事訴訟法ニ於テハ當事者ノ訴訟行為ニ付スル攻撃方法及ヒ防禦方法アル名
稱ヲ以テスルモノナリ茲ニ當事者ノ訴訟行為ヲ説明スルニ當リ其意義ヲ明カ

ニセントス所稱攻撃方法ハ原告ノ訴訟行為ニシテ防禦方法トモ被告ノ訴訟行為ナリ而シテ攻撃方法及ヒ防禦方法ハ其ニ廣狹ニ二意義ヲ有ス廣義ニ於ケル攻撃方法ハ原告及ヒ其申立タル判決ヲ得ルカ爲メニ爲ス一切ノ手段ヲ指シ又防禦方法ハ被告カ原告ノ申立ヲ却下スル判決ヲ得ルカ爲メニ爲ス一切ノ手段ヲ指スモツナリ(第五五條第七六條等)之ニ反シテ狹義ニ於ケル攻撃方法及ヒ防禦方法ハ單ニ事實上ノ主張ノミヲ指スモノナリ此場合ニ於テハ證據方法ハ其中ニ包含セラルルナリ第二〇九條ト第二一四條トヲ對照スルニ第二一〇條然レトモ又或場合ニ於テハ攻撃方法及ヒ防禦方法ハ最モ狹キ意義ニ於テ訴訟目的タル權利ノ存在又ハ不存在ヲ明カス不_レモ事實ノ存否ニ關スル主張ヲスル指スコトアリ此場合ニ於テハ攻撃方法及ヒ防禦方法ナル文字ハ訴訟法上ノ權利ノ存在又ハ不存在ヲ明カニスルモ事實ノ主張ト對照シテ用ヒラレタルモノナリ(第二二七條)又事理(第六二條)ハ當事者ノ申立ニ因リテ狹義ノ中當事者ノ訴訟行為爲形式(第六二條)ハ狹義ノ中當事者ノ申立ニ因リテ狹義ノ中當事者ノ訴訟行為爲意思表示以外ノ行為ヲ除キ或ハ口頭勇以テ之ヲ爲シ或ハ

書面ヲ以テ之ヲ爲スモ、又ナリ然レトモ判決ヲ目的トスル訴訟手續ニ於テハ、當事者ノ訴訟行爲ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ本則トス加之此訴訟手續ニ於テ口頭ヲ以テ爲ササル訴訟行爲ハ裁判所ニ於テ之ヲ採用スルコト能ハサルコトヲ以テ本則トス是レ即チ所謂口頭主義ナリ之ヲ要スルニ口頭主義ニ依ルトキハ當事者カ口頭ヲ以テ陳述シタルモノヲ以テ裁判ノ基本ト爲スヘキモノナリ又當事者カ口頭ヲ以テ陳述セサルモノハ縱令書面ヲ以テ之ヲ陳述シタルトモ、ト雖モ之ニ基キテ判決ヲ爲スコト能ハス(第一〇三條)然レトモ判決ヲ目的トスル訴訟手續ニ於テ例外トシテ口頭主義ニ依ラサル場合アリ今左ニ之ヲ説明セシトス

第一 各審級ニ於テ訴訟手續ノ開始ヲ來スヘキ行爲即チ訴及上訴等ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノナリ但區裁判所ニ於テハ口頭ヲ以テ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノナリ

第二 準備手續ヲ命令タル場合ニ於テハ當事者ハ準備手續ニ於テハ圖書ヲ以テ明確ニシタルモノニ限リ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ陳述スルコトヲ

民事訴訟法第一編

當事者ト裁判所トノ關係 當事者ノ訴訟行為

一一五

得ルモノナリ(第二七二條)。要するに、裁判官は、口頭辯論の結果、事實を認定し、法律を適用して判決を下す。判決以外に、裁判官が決定又は命令を爲すことは、訴訟手續に於ける當事者の行為に口頭主義に依らず本則トス。當事者の訴訟行為の效力は、口頭主義に依る。當事者の訴訟行為は、相手方と直接に交渉する結果を生ずるコトナシ。然レトモ當事者ノ訴訟行為ハ相手方ニ對シテ直接ニ他ノ法律上ノ效果ヲ生ズルコトアリ。例へば、當事者カ事實ノ陳述ヲ爲シタル時、相手方ハ之ニ對シテ陳述ヲ爲ササルヘカラサルニ至ルカ如シ(第一一一條)。蓋シテ違ヘタル所ニ依レバ、當事者ノ訴訟行為ハ裁判所ニ行爲ヲ基礎ト爲リ且其範圍ヲ限定スルモノナリ。之ヲ要スルニ當事者以行爲ハ裁判所ノ行爲ヲ左右スル效力ヲ有ス。就中當事者ノ事實上ノ主張及ヒ證據方法ヲ提出ニ付テハ所謂辯論主義ト稱スルモノ存在シ。裁判所ハ當事者ノ主張シタル事實及ヒ其提出シタル證據方法ニ依ルニ非スレバ、裁判ヲ爲スコト能ハサルヲ本則ト爲ス。此ノ如ク民事訴訟法ニ於テ辯論主義ヲ採用セシ所以ハ他カシ民事訴訟ニ於テ裁判ノ基本ト爲

ルベキ事實ハ通常他人ノ目ニ觸ルルコト渺ク當事者ニ非サレハ之ヲ知ルコト能ハサルヲ常トス。故ニ裁判所ヲシテ之ヲ探究セシムルコトハ難キヲ之ニ求ムルモノナリ。以テ勢ヒ訴訟ノ遲滯ヲ來ササルヲ得ヌ加之裁判所カ自ラ事實ヲ探究スルモノトセハ其探究ニ先テ豫メ方針ヲ定メ豫斷ヲ爲ササルヘカラス。故ニ自ラ偏頗ニ陥リ易ク且裁判所ハ事實ノ探究ニ付キ利害關係ヲ有セサルヲ以テ怠慢ニ流レ易シ之ニ反シテ利害ノ關係アル當事者雙方ヲシテ事實及ヒ證據方法ヲ提出セシムルコトキハ此等ノ弊害ヲ救フニ足ルモノナリ。是レ即チ民事訴訟法ニ於テ辯論主義ヲ採用セル所以ナリ。果シテ然ラハ辯論主義ナルモノハ當事者ノ利己心ヲ利用シ之ヲシテ事實ノ主張及ヒ證據方法ヲ提示ス。關スル責任ヲ負擔セシムルモノニシテ其實ヲ發見スルニ最モ便利ナリトノ思想ヨリ出タタルモノト謂ハサルヘカラス。或ハ辯論主義ノ根據ハ當事者カ事實ヲ處分スル權利ニ在リト爲ス者アリ。然レトモ當事者ハ私法上ノ權利ヲ處分スルモノト得ルモ事實ヲ處分スル權利ヲ有スルモノニ非ス。又其私法上ノ權利ヲ處分スルニ訴訟行為爲其モノニ依ルコトヲ得ルモノニ非ス。訴訟行為ハ唯裁判所ノ行為即

テ訴訟ノ結果ヲ左右スル効力ヲ有スルモノニ過キスシテ直接ニ權利上ノ權利ヲ左右スルノ効力ヲ有セス何トナレハ訴訟行為ハ訴訟ト共ニ終結シ訴訟以外ニ其効力ヲ及ボササルモノナレハナリ若シ訴訟行為カ私法上ノ權利ヲ處分スル効力ヲ有ストセハ訴訟以外ニ其効力ヲ及ボスコトヲ得ルモノ事當結セサルヘカラス

辯論主義ハ右ニ述ベタル思想ヨリ起リタルモノナレハ左ノ場合ニ於テハ自ラ其例外ヲ生スルモノナリ

第一 或事實カ裁判上顯著ナルトキ或事實カ裁判上顯著ナルトキハ其事實力裁判官ノ屬スル社會ニ於テ廣ク知ル所ト爲ルカ爲メ裁判官モ亦訴訟以外ニ於テ之ヲ知り又ハ其事實カ裁判官ノ職務上知ル所ト爲リタルコトヲ謂フナリ裁判上顯著ナル事實ハ當事者カ之ヲ主張セス又其主張ニ根據アルトキト雖モ裁判所ハ之ヲ以テ裁判上ノ基本ト爲シ又當事者ノ一方カ之ヲ主張シタル場合ニ於テ相手方カ之ヲ争ヒタルトキト雖モ裁判所ハ證據ヲ採タズシテ直チニ之ヲ以テ裁判ノ基本ト爲スヘキモノナリ

第二 裁判所カ證據方法ノ存在ヲ明カニ知ルコトヲ得ルトキ 檢證ノ目的物又ハ鑑定人ハ裁判所ニ於テ通常明カニ之ヲ知ルコトヲ得ルモノナリ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ檢證又ハ鑑定ヲ命スルコトヲ得ルモノナリ

第三 當事者カ或事實ノ存在又ハ不存在ヲ明カニスルニ付キ直接ニ利益ヲ有セサルトキ 右ニ述ベタル場合ニ於テ當事者ノ利己心ヲ以テ根據トスル辯論主義ハ實際ニ於テ其效ヲ奏セサルモノト謂ハサルヘカラス故ニ斯ル場合ハ民事訴訟法ハ辯論主義ヲ捨テ裁判所ヲシテ其職權ニ依リ事實ノ調査ヲ爲サシムルモノナリ而シテ法律ニ於テ裁判所カ職權ヲ以テ事實ノ調査ヲ爲スヘキ場合ハ當事者カ其意思ヲ以テ左右スルコト能ハサル公益上ノ規定ノ適用ヲ來スヘキ事實ノ存否ニ付キ裁判所カ判斷ヲ爲スコトヲ要スル場合ナリ例ヘハ訴訟能力若クハ法律上代理ノ有無ニ付キ又ハ上訴期間若クハ故障期間ノ經過シタルヤ否ヤニ付キ判斷ヲ要スル場合ノ如シ

右ニ述ベタル場合ノ外訴訟ノ目的物タル法律關係カ公益ニ影響ヲ及ボス場合ニ於テハ民事訴訟法ハ辯論主義ヲ捨テテ職權主義ヲ採用セリ蓋シ此場合ニ於

ヲハ事實ノ蒐集ヲ當事者ニ一任スルコト其當然得ルモノナリ以テ苟モ當事者カ誠事實ヲ主
 張シ若クハ證據方法ヲ提出シ其結果トシテ其事實ノ存在ヲ明カニシタルトキ
 ハ孰レノ當事者ノ利益ニ於テモ之ヲ採用スルモノト得ルモノナリ故モ事實及
 ヒ證據方法ハ當事者ノ一方カ之ヲ提出シタルトキト雖モ其事實及ヒ其證據方
 法ニ依リテ得タル證據ハ當事者雙方ニ共通ト爲ルニ至ルモノナリ之ヲ要スル
 ニ辯論主義ハ當事者ノ提出セタル事實ヲ以テ裁判ノ基本ト爲スルカラサルコ
 トヲ命スルニ過キサルモノナリ當事者ノ提出シタル事實及ヒ證據方法ハ其當
 事者ノ利益ニ於テ之ヲ採用スルモノト得ルモノナリコトヲ意味スルモノニ
 非ス換言スレバ辯論及ヒ證據調查ノ結果ハ裁判所ニ於テ孰レノ當事者ノ利益ニ
 於テモ之ヲ以テ裁判ノ基本ト爲スヘキコトヲ得ルモノナリ故モ之ヲ證據方法
 第二條第三項ニ規定スルモノナリ

第二節 裁判所ノ行為

裁判所ハ判決又ハ強制執行ニ依リテ私權ノ保護ヲ爲スモノナリ故ニ判決及ヒ
 強制執行ハ裁判所ノ行為中最モ重要ナルコト勿論ナリ然レトモ裁判所ハ判決
 及ヒ強制執行ヲ爲スニ當リテ之ヲ準備スル力ヲ爲メ向テ種種ノ行為ヲ爲ス必要
 アリ其重大ナルモノハ知覺訴訟ノ指揮及ヒ裁判ナリ關スルモノハ調査セシメ
 第一 知覺ハ當事者間ニ起ル訴訟ニ屬スルモノナリ然レモ其性質ハ私權ノ保護
 裁判所カ判決ヲ爲スニ當リテハ當事者ノ申立若クハ其事實上ノ陳述ヲ聽キ證
 人若クハ鑑定人ヲ訊問シ證書若クハ證據物件ヲ檢閲シ以テ判決ノ材料ヲ集メ
 サルヘカラス裁判所カ強制執行ヲ爲スニ當リテモ其必要條件ノ調査ヲ爲スニ
 當リ五官ノ作用ニ依リ種種ノ事實ヲ調査スルノ必要アルコト言フ埃タス
 第二 訴訟ノ指揮ハ裁判所ノ職務ニ屬スルモノナリ然レモ其性質ハ私權ノ保護
 裁判所カ判決ヲ爲スニ當リテハ訴訟手續ヲ進行ヲ圖リ且當事者ノ法律上ノ
 規定ニ反セズ且完全ナル判決ノ材料ヲ供セシムルカ爲メ訴訟ノ指揮ヲ爲シ以

學齡兒童就學不就學百分率統計表		
年 度	就 學	不 就 學
	男 子 女 子 合 計	男 子 女 子 合 計
三 十 年	八〇・六七 五〇・八六 六六・六五	一九・三三 四九・一四 三三・三五
二 十 九 年	七九・〇〇 四七・五四 六四・二三	二一・〇〇 五二・四六 三五・七八
二 十 八 年	七六・六五 四三・八七 六一・二四	二三・三五 五六・一三 三八・七六

師範學校、中學校、高等女學校ハ又府縣ニ於テ之カ設備ノ義務ヲ負ヒ北海道及ヒ
沖繩縣ヲ除クノ外ハ其經費ヲ負擔ス明治三十年十月勅令第三百四十六號師範
教育令明治三十二年二月勅令第二十八號中學校令明治三十二年二月勅令第三
十一號高等女學校令參照實業學校ハ府縣之カ設置ノ權利アリ文部大臣ハ又土
地ノ狀況ニ應ジ之カ設置ヲ命スルコトアリ其經費ノ負擔ハ又前ト相同シ明治
三十二年二月勅令第二十九號實業學校令參照但政府ハ目下之カ獎勵ヲ必要ト
スルヲ以テ明治三十七年六月法律第二十號實業教育費國庫補助法ヲ公布シ

文部大臣ノ定ムル所ノ條件ニ從ヒ實業學校ヲ補助スルヲト爲セリ明治三十五年度ノ豫算ニ依レハ其額三十二萬圓ナリ

年	度	收入	支出	収支
二十九年	八	四六四	一、二六七	八〇二
三十年	九	五四八	一、五五二	一、〇〇四
三十一年	十	六二六	一、八六六	一二四〇

文部省直轄學校ハ高等教育ノ發達ヲ圖ルモノニシテ我國ニ在リテハ大學高等學校高等師範農林商業工業ノ諸學校醫學專門學校美術音樂官立外國語學校等ナリ此等ノ學校ハ明治二十三年三月法律第二十六號ニ依リ各自資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄宿金及其他ノ收入ヲ以テ其歳出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシムルコトヲ爲シ明治三十五年度ノ

豫算ニ依レハ文部省ヨリ此等ノ學校ニ支出スル總額ハ約二百四十萬圓ナリ其他内務省ノ警察監獄學校農商務省ノ水産及工國業講習所通信省ノ商船學校郵便電信學校等ヲ始メ陸海軍ニハ大學校以下十數種ノ學校アリ尙ホ圖書館博物館學士會院中央氣象臺緯度觀測所其他各種ノ萬國の學術ニ關スル會館等ノ經費其他文部本省費ハ皆教育行政費ニ屬スヘキモノニシテ我國明治三十五年度ニ於ケル本省費ハ四十六萬圓ナリ

官公私立學校教員學生及生徒統計表

年	度	學校	教員	學生
二十九年	八	二八四七六	七九一七二	四、一七六五七七
三十年	九	二八四二七	七六一五八	四、〇三八八二七
三十一年	十	二八二八二	七三三六六	三、八〇一、〇三五

第五目 宗教行政費 宗教行政費ハ明治三十五年度ニ於ケル本省費ハ四十六萬圓ナリ

國家ヲ以テ教會ノ營造物ト看做ス敎國主義ハ現時何レノ國ニ於テモ行ハルル所ナク信教ノ自由ハ一般ニ憲法ノ保障スル所ト爲レリ然レトモ宗教ハ國民ノ精神ヲ左右スルモノニシテ教育上政治上密接ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ又未タ宗教ヲ以テ全然他ノ政社ト同一視スル政教分離主義ノ行ハレタガフ間カス隨テ現時各國ノ宗教行政ハ國敎主義ト宗教公認主義ト二者ニ大別スルコトヲ得ヘシ國敎主義ハ宗教ヲ以テ國家事務ノ一部ト看做ス敎教一敎主義ニシテ教會ヲ國家ノ營造物ト看ルモノナリ宗教公認主義トハ宗教中利害關係ノ密接ニシテ且重大ナルモノヲ公認シ之ヲ保護監督スルモノナリ二者共ニ又其間ニ程度ノ差異アルモ前者ハ常ニ宗教行政費トシテ巨額ノ經費ヲ要スヘキハ言フ埃タナル所ナリ露國ノ希臘敎ニ於ケル伊太利西班牙葡萄牙ノ舊敎ニ於ケル英吉利普瀝西ノ新敎ニ於ケル若國敎主義ニシテ國王ハ同時ニ宗教ノ保護者後見人ト爲リ僧侶ノ任免教會ノ廢立等皆其權内ニ屬スルヲ例トセリ千八百九十七年ニ於ケル露國敎務院ノ經費ハ二千百十七萬ルーブルヲ超エ尙ホ他ノ宗派ニ對シテ巨額ノ補助ヲ支出セリ殊ニ對外傳道ノ爲メニ設ケラレタル外國

聖敎所ノ經費ハ露國唯一ノ事例ニシテ對外政策上重要ナル關係ヲ有セルハ「バ」ルカン半島史露國外征史ニ徴シテ明カナル所ナリトス英國ノ如キモ寺院ノ經費ハ年年四千萬圓ヲ超エ其大部ハ常ニ寄附金ヨリ成レリ我國ニ在リテハ近時社寺局ヲ宗教局及ヒ神社局ニ分チタルニ依リ神社ハ宗教ト認メ難キ點アルモ神佛ノ二者ハ共ニ特別ノ保護監督ヲ加ヘ其他ノ宗教ニ對シテハ單ニ結社トシテ取扱フニ過キタルカ故宗教公認主義ト認ムヘキモ二者共ニ維新以來其勢力ヲ失ヒ基督教ノ勢力尙ホ未タ振ハス現時中流以上ノ日本人ハ事實上無宗教ノ狀況ニ在ルヲ以テ政府ノ宗教行政費ハ歐米各國ニ比シテ其項少ナルコト露國モ管ナラス即チ三十五年度豫算ニ依レハ經常費ハ神社宗教二局ノ外神宮費神社費國幣社例祭幣帛料古社寺ノ保存補助及ヒ補給等ニシテ臨時部ハ造神宮使廳費官幣社改築保存補助費等總計六十萬圓内外ニ過キス然レトモ我國ニ於ケル宗教ハ決シテ今日ノ狀況ニ止マルヘキニ非タルヲ以テ將來宗教ニ對スル方針ノ如何及ヒ之カ活動ノ消長ニ伴ヒ之カ行政費ノ膨脹ヲ來スノ機アルヘキナリ

第六目 交通行政費

第一 道路及橋梁行政費

道路ノ通行料ヲ徵收セシメ古代ノ遺風ニシテ現時支那其他二三ノ國ヲ除ク外ハ各國共ニ通行ノ自由ヲ認メ唯稀ニ通行料、橋錢等ヲ徵收スルモノアリニ過キヌ我國ノ公道ハ國道縣道里道ノ三ニ分タルモ單ニ道幅構造等ヲ標準トセラルモノニシテ其經費ハ府縣以下ノ地方團體ニ屬セリ然レトモ其額著大ナルモノハ國庫ノ補助ヲ受クルヲ例トス三十五年度豫算ニ依ルモ道路修築費補助額ハ十一萬餘圓ニ見積レリ今國庫地方支出ニ別ヲ見ルニ次ニ如シ

年 度	道路ノ國庫支出額	橋梁ノ國庫支出額	道路ノ地方支出額	橋梁ノ地方支出額
二十九年	五〇	二六	五三八	一八六
二十八年	四八	三三	四六七	一四二
二十七年	六六	一九	四七二	一五五

但地方團體ノ相互間ニ於ケル經費負擔ノ分配ハ全ク舊慣ニ依ルモノニシテ或ハ國道ニシテ郡村ノ負擔ニ屬スルアリ或ハ里道ニシテ縣郡ノ負擔ニ歸スルモノアリテ一定スル所アルナシ

道路ノ新設、修繕ニ付キ現時地方財政ニ於ケル問題ハ市區ニ於ケル道路ノ改正ニシテ國庫ノ補助及ヒ地方債ノ募集ニ依ルヲ例トセルモノノ如シ我東京市ノ市區改正ハ明治二十一年勅令第六十二號東京市區改正條例ニ依リ之ヲ費用ニ充ラルカ爲メ三十萬圓乃至五十萬圓ノ收入ヲ限度トシ東京府内ニ地租制、營業稅、雜種稅、家屋稅、酒稅ノ五種ノ特別稅ノ外現用ニ供セラル官有河岸地ノ下付ヲ許シ尙ホ別ニ公債募集ノ途ヲ開ケリ

第二 水路行政費

水運ニ關スル行政費ハ其費目甚タ多シ今其重カルモノヲ列舉スルニ次ニ如シ一、河川ノ維持、修繕、其河川ハ、灌漑、航行、灌溉、ニ關スルモノアリ河川ノ維持、修繕ハ國內水路ニシテ最モ必要ナル事務ニ屬セ我我國ニ在リテ

明治二十九年法律第七十號河川法ハ河川ノ管理ニ關スル規定ヲ設ケ其費用ハ總テ府縣ノ負擔トシ其河川ノ數府縣ニ跨ル場合ニハ特ニ指定セルモノニ限リ國庫ニ於テ其全部又ハ一部ヲ負擔シ尙ホ其他ノ場合ニ於テ其府縣ノ地租額ニ對スル比率ニ依リ超過額ノ三分ノ二又ハ四分ノ三以內ノ補助ヲ爲スコトト爲セリ内務省土木局ハ河川港灣ニ關スル土木事務ヲ執行スル處ニシテ其經費百四十萬圓内外ハ主トシテ河川行政費ニ屬シ又内務省所管臨時都ノ土木事業費ハ全部河川ノ修築及ヒ之ニ附帶セル諸經費ニシテ三十五年度豫算ニ依レハ其額三百七十萬圓ニ上レリ尙ホ河川ノ修築費大ナルモノニ在リテハ別ニ繼續費トシテ巨額ノ經費ヲ支出セリ今河川土木費ノ國庫地方費別ヲ見ルニ次ノ如シ

年 度	國 庫	支 出	地 方	支 出
二十九年	四二三	萬圓	八一七	萬圓
二十八年	二二三		四三三	
二十七年	二九二		四八三	

○敷金ノ利息 敷金ノ法律上ノ性質ニ付テハ學者間ニ於テ多少見解ヲ異ニスル所ナリト雖モ我民法ハ之ヲ以テ貸貸借契約ニ對スル一種ノ擔保ト認メタルモノノ如シ而シテ此敷金ナルモノハ其效力ニ於テ他ノ擔保ト大ニ異ナルモノアリ即チ貸貸借契約更新ノ推定ヲ受クル場合ニ於テ擔保ハ一般ニ消滅スルニ拘ハラズ唯リ敷金ハ其效力ヲ繼續スルモノナリ民法第六一九條此敷金ナルモノニハ慣習上利息ヲ附セサルヲ通例トス蓋シ之ヨリ生スル利息ハ借貸又ハ修繕費ノ一部ト看做スニ由ルナルヘシ故ニ一旦貸貸借契約ヲ解除シタルトキハ此ニ敷金タルノ性質ヲ變スルモノト謂フヘク隨テ契約解除後ニ於テ貸主ハ其受取リタル敷金ヲ遲滞ナク借主ニ返還スルニ非サレハ之ニ對スル利息ヲ支拂フヘキコトハ當然ノ理ナルカ如シ蓋シ金錢ナルモノハ一日ト雖モ無益ニ存スルコトナケレハナリ此點ニ關シ大審院ハ說明ヲ與ヘテ曰ク「契約解除ノ場合ニ於テハ當事者ハ原狀ニ復スル爲メ其返還スルべき金錢アルニ於テハ其受領

ノ時ヨリ利息ヲ附スルモノタルニ於テ民法第五百四十五條ノ規定ニ於テ明
 カナリ止タ貸借契約解除ノ場合ニ於テハ民法第六百二十條ニ於テ其解除ハ
 將來ニ向テノミ其效力ヲ生スト規定セリ故ニ其解除ノ爲メ上告人ヨリ返還ス
 ヘキ保銀ノ敷金ニ對シテハ其受領シタル時ヨリ利息ヲ附スヘカラスト雖モ解
 除ノ時ヨリ當然利息ヲ附スヘキモノトスト（大審院明治三十四年四月十七日第一民事部判決）

○運送取扱人ノ注意ノ限度 商法第三百二十二條ニ所謂「其他運送ニ關ス
 ル注意ヲ怠ラサリシコト」ハ運送取扱人ニ對シテ如何ナル事項ニ付キ注意ヲ
 爲スヘキコトヲ命シタルモノナルカ詳言スレハ運送取扱人ハ物品運送ノ取次
 ヲ爲スヲ業トスルモノナルカ故ニ單ニ取次上ノ注意ヲ爲スノミヲ以テ足レリ
 トスルカ若クハ運送品自體ニ付キ滅失毀損ナキコトヲ注意セサルヘカラスカ
 カハ問題ト爲ラサルニ非ス何トナレハ運送取扱人ニ付テハ運送人ニ關スル第
 三百三十九條ノ如キ明文ナク隨テ運送人ニ運送品ヲ引渡スマテノ保管運送人
 ノ選擇及ヒ運送品ノ種類性質價格等ヲ運送人ニ告知スルヲ以テ足レリトスル

ニ似タレハナリ大審院ハ此問題ニ對シ説明シテ曰ク凡ソ運送取扱人ナル者ハ
 荷送人ヨリ委託セラレタル運送品ハ其何品タルヲ問ハス高價品ヲモ取扱フヘ
 キ營業ナルヲ以テ其取扱方法ハ單ニ運送人タル營業者即チ法律上運送人ト認
 ムヘキ者ヲ選擇シテ其運送品ヲ引渡スノミヲ以テ足レリトセス其他運送上殊
 ニ高價品ニ付テハ最モ注意周到ニ爲ササルヘカラス然ラサレハ委託者ニ在テ
 ハ須臾モ安シスル能ハサル筋合ナリ故ニ商法第三百二十二條中ニ其他運送ニ
 關スル注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルニ非サレハ云云ト規定セシ所以ナリ
 而シテ茲ニ所謂運送ニ關スル注意云云ノ規定ハ運送人ニ適用スヘキ同法第三
 百三十七條末段ノ規定ト同一ニシテ其注意ヲ爲スヘキ程度ハ運送品ノ性質其
 他諸般ノ狀況ニ因リ一定ナル能ハス其注意ヲ怠リシヤ否ヤハ固ヨリ事實上ノ
 認定ニ屬スト（大審院明治三十五年四月十一日第二民事部判決）此判決理由ニ於
 テハ（一）運送取扱人ハ法律上運送人ト認ムヘキ者ヲ選擇シテ其運送品ヲ引渡ス
 ノミヲ以テ足レリトセサルコト（二）注意ヲ怠リシヤ否ヤハ事實問題ナルコトヲ
 決セラレタルノミニシテ未タ物足ラサル如キ感ナキニ非ス

○文官高等試験 同試験施行セラルベキ志願者ハ明治二十七年五月
 間令第二號ニ從ヒ來ル七月二十二日ヨリ出願書ニ履歷書及在リ文題中其
 一ヲ擇ミ論文ヲ添ヘ文官高等試験委員長奥田義人氏宛テ桔梗門内事務所ニ
 差出スコトヲ要ス論文ハ半紙十行二十字詰ニシテ二十五枚以下トシ論文作者
 ノ氏名ハ論文中ニ記入セス別ニ論文ノ表紙ニ之ヲ記載スヘキモノトス

文題

- 一 非常大權ノ行使ヲ論ス
- 二 國事犯ヲ論ス
- 三 遺言ニ關スル法規ノ沿革ヲ論ス
- 四 國家專賣ノ法律上ノ性質ヲ論ス
- 五 租界漸減法ヲ論ス
- 六 千八百五十六年巴里宣言ノ由來及モ將來

○第二等級擬作試験 去ル十日舉行シタル同試験ノ問題左ノ如シ(遠藤學士出題)
 甲ノル者一法律學校ヲ設立セシト計畫シ友人乙方ニ到リ乙所有ノ地所ヲ校舍敷地用トシテ金壹萬圓ヲ與テ建築シ學費費入
 レシニ乙ハ不日而答スヘキ旨ヲ告テ立退リシ數日經テ甲乙兩人某所ニ於テ出會シ乙ハ其意氣盛リテ學費ノ申込ニ對
 シ承諾ス與フルニ在リナカラズ事情ノ爲メ右地所ヲ甲ニ贈與スル旨ヲ表示シ甲ハ其表示ヲ以テ乙ノ意氣ニ由テタル
 ト信シ贈與ヲ受諾スル旨ヲ返答シ數日經テ後乙ノ真意發見サ承諾スルニ在リタルコトヲ覺知シ其意氣行テ決ムル所ヲ
 掘起シタルニ乙ハ意思ノ合致ナキヲ以テ賣買ハ成立セスト抗辯セリ
 右ノ場合ニ於テ如何ナル理由ニ依リ如何ナル判決ヲ爲スヘキヤ

法學志林

第三十二號 六月十五日發行

毎月一回十五日發行○定價一冊金十錢郵税一錢
 校友・生徒・校外生ニ限リ特價一冊金八錢郵税一錢
 十冊金七十錢郵税十錢

志林	○最近判決例批評二三	法學博士 梅	鳥木	太次郎
論	○監獄期間ノ起算點ヲ論ス	法學士 岡	直	實郎
寄書	○社會主義ノ三大流源	法學士 岡	太	實郎
疑	○債權法ヲ論ス	法學士 岡	太	實郎
解	○豫審決定書ノ瑕疵ヲ公判裁判所ニ於テ	法學士 岡	太	實郎
判例	○物ノ分割ト所有權トノ關係	法學士 岡	太	實郎
維報	○地下ニシタルモノヲ設ケタ他人ノ土地ヲ	法學士 岡	太	實郎
記事	○使用スル權利ノ性質	法學士 岡	太	實郎
發行所	○日英協約ノ國際法上ノ權利及ヒ效力	法學士 岡	太	實郎
	○再審ノ斷ニ於ケル訴訟物ノ價額ノ算定	法學士 岡	太	實郎
	○大審院最新判決例三十五件	法學士 岡	太	實郎

發行所 東京市麹町區富士見町六丁目 司法省認定 和佛法律學校
 (電話番町一七四) 文部省認定

○文官高等試験 同試験施行セラルヘキニ付キ志願者ハ明治二十七年五月
閣令第二號ニ從ヒ來ル七月二十二日マテニ出願書ニ履歷書及ヒ左ノ文題中其
一ヲ擇ミ論文ヲ添ヘ文官高等試験委員長奥田義人氏ニ宛テ桔梗門内事務所ニ
差出スコトヲ要ス論文ハ半紙十行二十字詰ニシテ二十五枚以下トシ論文作者
ノ氏名ハ論文中ニ記入セス別ニ論文ノ表紙ニ之ヲ記載スヘキモノトス

文題

- 一 非常大權ノ行動ヲ論ス
- 二 國事現ナ論ス
- 三 議會ニ關スル法規ノ沿革ヲ論ス
- 四 國家專賣ノ法律上ノ性質ヲ論ス
- 五 租界漸減法ヲ論ス
- 六 千八百五十六年巴里宣言ノ由來及モ將來

○第二年度擬定試験 去ル十日舉行シタル同試験ノ問題左ノ如シ(遠藤學士出題)

甲ノ者一法律學校ヲ設立セシト計畫シ友人乙方ニ對シ乙所有ノ地所ヲ校舍敷地用トシテ金壹萬圓ニテ賣渡シ美價買入
レシモノ乙ハ不目當答スヘキ旨ヲ告タ立則レテ數日ノ經テ甲乙兩人某所ニ於テ出會シ乙ハ其意圖日ノ賣渡シ美價買入
シ謂テ與テ乙ニ在リナカラ或モ事情ノ爲メ有地所ヲ甲乙兩共表示シ甲ハ其表示ヲ以テ乙ノ意圖ニ出テタル所
ノ地所賣渡シ與テ受諾スル旨ヲ返答シ置キタル後乙ノ賣渡買入ヲ承諾スルニ在リタルコトヲ知知シ其賣渡買入ヲ求ムル訴ヲ
提起シタル乙ハ意思ノ合致ナキヲ以テ賣買ハ成立セスト抗辯セリ
右ノ場合ニ於テ如何ナル理由ニ依リ如何ナル判決ヲ爲スヘキヤ

法學志林

第三十二號 六月十五日發行

毎月一回十五日發行○定價一冊金十錢郵稅一錢
校友、生徒、校外生ニ限リ特價一冊金八錢郵稅一錢
十冊前金七十錢郵稅十錢

志林

○最近判決例批評二三
○適當權ノ訴ニ就テ
○監視期間ノ起算點ヲ論ス
○南清南洋遊歷談
○社會主義ノ三大流派續

纂論

○慣習法ヲ論ス
○豫審決定書ノ瑕疵ヲ公判裁判所ニ於テ

寄書

○物ノ分裂ト所有權トノ關係
○地下ニトンネルヲ設ケテ他人ノ土地ヲ
○使用スル權利ノ性質
○日英協約ノ國際法上ノ種如及ヒ效力
○再審ノ訴ニ於ケル訴訟物ノ價額ノ算定

解疑

○大審院最新判決例三十五件

判例

○大審院最新判決例三十五件

雜報

○大審院最新判決例三十五件

發行所

東京市麴町區富士見町六丁目
電話番町一七四
司法省指定
文部省認定
和佛法律學校

校外生規則摘要

一 講義録ヲ分チテ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一 講義録ノ掲載科目左ノ如シ

第一學年 法學通論、憲法、民法第一編及第二編第六章
第二學年 民法(總論)、國際公法、經濟學
第三學年 民法(第三編)、商法(第一編第二編、第三編) 刑
法(各論)、民事訴訟法(第一編第二編)、刑事訴訟法、財政學
第三學年 民法(第二編第七章以下、第四編第五編)、商法
(第四編第五編)、民事訴訟法第三編以下、破產法、行政
法、國際私法

一 講義録ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年 五日 二十日 第二學年 十日 廿五日
第三學年 十五日 三十日(但二月ニ限り來日)

一 校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一 月謝金左ノ如シ

第一學年 金三十圓 第二學年 金四十圓
第三學年 金五十圓 全學年 金一圓

一 月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早速便ヲ
以テ東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治三十五年六月廿四日印刷
明治三十五年六月廿五日發行 (定價金貳拾五錢)

東京市牛込區東横町十七番地

編輯者 松田久次郎

東京市牛込區矢來町三番地

印刷者 小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子浩版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)

明治三十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月九日第三種郵便物認可